

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号
特許第4925847号
(P4925847)

(45) 発行日 平成24年5月9日(2012.5.9)

(24) 登録日 平成24年2月17日(2012.2.17)

(51) Int.Cl.	F I
B 6 5 D 30/16 (2006.01)	B 6 5 D 30/16 G
B 6 5 D 30/02 (2006.01)	B 6 5 D 30/16 C
B 6 5 D 30/18 (2006.01)	B 6 5 D 30/16 F
B 6 5 D 30/20 (2006.01)	B 6 5 D 30/02
A 4 5 C 3/02 (2006.01)	B 6 5 D 30/18 F

請求項の数 3 (全 24 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号	特願2007-24766 (P2007-24766)	(73) 特許権者	000115821
(22) 出願日	平成19年2月2日(2007.2.2)		株式会社リヒトラブ
(65) 公開番号	特開2008-189348 (P2008-189348A)		大阪府大阪市中央区農人橋1丁目1番22号
(43) 公開日	平成20年8月21日(2008.8.21)	(74) 代理人	100079577
審査請求日	平成20年7月11日(2008.7.11)		弁理士 岡田 全啓
		(72) 発明者	田中 莞二
			大阪市中央区農人橋1丁目1番22号 株式会社リヒトラブ内
		(72) 発明者	新井 裕
			大阪市中央区農人橋1丁目1番22号 株式会社リヒトラブ内
		(72) 発明者	伊藤 清彦
			大阪市中央区農人橋1丁目1番22号 株式会社リヒトラブ内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 バッグ

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

正面方形の硬いプラスチック板体で形成された表胴版と、
背面方形の硬いプラスチック板体で形成された裏胴版と、
前記表胴版と裏胴版との間において前記表胴版及び裏胴版の第1側縁及び第2側縁と底縁とに、両長手端縁によって連設された襷部とを備え、
前記表胴版及び裏胴版は、
襷部材を溶着するための溶着代を備え、前記溶着代は、第1側縁、第2側縁及び底縁の内側面で、第1側縁の近傍の溶着代、第2側縁の近傍の溶着代、底縁の近傍の溶着代を含み、且つ、底縁の外側に折り曲げ部を介して連設された挟着補強部を備え、
前記襷部は、
表胴版及び裏胴版と溶着できる軟質プラスチックシートからなる襷部材で形成され、
前記表胴版の第1側縁及び裏胴版の第1側縁に対応する略方形の第1側襷部と、前記表胴版の第2側縁及び裏胴版の第2側縁に対応する略方形の第2側襷部と、前記表胴版の底縁及び裏胴版の底縁に対応する略方形の底襷部とを有し、
第1側襷部と底襷部との境界の近傍及び第2側襷部と底襷部との境界の近傍は、折り曲げられて、表胴版の第1側縁と、表胴版の底縁との境界の表胴版の第1角部及び裏胴版の第1側縁と、裏胴版の底縁との境界の裏胴版の第1角部に対応した、第1角襷部、並びに表胴版の第2側縁と、表胴版の底縁との境界の表胴版の第2角部及び裏胴版の第2側縁と、裏胴版の底縁との境界の裏胴版の第2角部に対応した、第2角襷部を形成され、

前記襷部は、表胴版の第1側縁及び第2側縁の長さとは対応する長さを有する表側長手端縁を備えるとともに、裏胴版の第1側縁と第2側縁の長さとは対応する長さを有する裏側長手端縁を備え、

前記第1角襷部は、

表側長手端縁及び裏側長手端縁と直交し、表胴版の第1角部と裏胴版の第1角部とを結ぶ線に対応する第1角折り目と、第1側襷部の山折り折り目から第1角折り目まで一直線状に続く第2角折り目と、底襷部の山折り折り目から第1角折り目まで一直線状に続く第3角折り目と、第1角折り目と裏側長手端縁との交点から第1側襷部の山折り折り目と第2角折り目との交点まで続く第4角折り目と、第1角折り目と裏側長手端縁との交点から底襷部の山折り折り目と第3角折り目との交点まで続く第5角折り目と、第1角折り目と表側長手端縁との交点から底襷部の山折り折り目と第3角折り目との交点まで続く第6角折り目と、第1角折り目と表側長手端縁との交点から第1側襷部の山折り折り目と第2角折り目との交点まで続く第7角折り目とを備え、

10

第1角折り目において、バッグの外側に向けて谷折りされ表胴版の第1角部及び裏胴版の第1角部とを結ぶ線に対応した角部を形成され、

第2角折り目を、バッグの内側に向けて山折りされる山折り折り目に連続して内側に折り曲げ、第1角折り目と第2角折り目と第4角折り目とに囲まれた第1角襷面と、第1角折り目と第2角折り目と第7角折り目とに囲まれた第2角襷面とを、密着され、

底襷部と第3角折り目と第5角折り目及び第6角折り目との交点において底襷部と第3角折り目とを90°折り曲げ、且つ第5角折り目と第6角折り目とは内側に折り曲げ、第3角折り目は、第2角折り目に密に接して折り曲げられ、

20

第3角折り目と第5角折り目と第1角折り目とに囲まれた第3角襷面と第5角折り目を挟んだ底襷部の第5角折り目近傍の面とを密着させるとともに、第3角折り目と第6角折り目と第1角折り目とに囲まれた第4角襷面と第6角折り目を挟んだ底襷部の第6角折り目の近傍の面とを密着され、

前記第2角襷部は、

表側長手端縁及び裏側長手端縁と直交し、表胴版の第2角部と裏胴版の第2角部とを結ぶ線に対応する第1角折り目と、第1側襷部の山折り折り目から第1角折り目まで一直線状に続く第2角折り目と、底襷部の山折り折り目から第1角折り目まで一直線状に続く第3角折り目と、第1角折り目と裏側長手端縁との交点から第2側襷部の山折り折り目と第2角折り目との交点まで続く第4角折り目と、第1角折り目と裏側長手端縁との交点から底襷部の山折り折り目と第3角折り目との交点まで続く第5角折り目と、第1角折り目と表側長手端縁との交点から底襷部の山折り折り目と第3角折り目との交点まで続く第6角折り目と、第1角折り目と表側長手端縁との交点から第1側襷部の山折り折り目と第2角折り目との交点まで続く第7角折り目とを備え、

30

第1角折り目において、バッグの外側に向けて谷折りされ表胴版の第2角部及び裏胴版の第2角部とを結ぶ線に対応した角部を形成され、

第2角折り目を、バッグの内側に向けて山折りされる山折り折り目に連続して内側に折り曲げ、第1角折り目と第2角折り目と第4角折り目との囲まれた第1角襷面と、第1角折り目と第2角折り目と第4角折り目とに囲まれた面とを、密着され、

40

底襷部と第3角折り目と第5角折り目及び第6角折り目との交点において底襷部と第3角折り目とを90°折り曲げ、且つ第5角折り目と第6角折り目とは内側に折り曲げ、第3角折り目は、第2角折り目に密に接して折り曲げられ、

第3角折り目と第5角折り目と第1角折り目とに囲まれた第3角襷面と第5角折り目を挟んだ底襷部の第5角折り目近傍の面とを密着させるとともに、第3角折り目と第6角折り目と第1角折り目とに囲まれた第4角襷面と第6角折り目を挟んだ底襷部の第6角折り目の近傍の面とを密着され、

前記襷部材は、

第1側襷部の表側長手端縁の近傍の溶着代及び裏側長手端縁の近傍の溶着代と、底襷部の表側長手端縁の近傍の溶着代及び裏側長手端縁の近傍の溶着代と、第2側襷部の表側長

50

手端縁の近傍の溶着代及び裏側長手端縁の近傍の溶着代とを備え、

表側長手端縁と裏側長手端縁との間において、長手方向に連続して形成された山折り折り目と、前記山折り折り目の幅方向における両側に前記山折り折り目に沿って長手方向に連続して形成された表側谷折り折り目と裏側谷折り折り目とを形成され、前記山折り折り目と表側谷折り折り目との間と前記山折り折り目と裏側谷折り折り目との間を接着されて補強部が形成され、

長手方向に連続する、表側長手端縁の第1側襷部の表側長手端縁の近傍の溶着代、底襷部の表側長手端縁の近傍の溶着代及び第2側襷部の表側長手端縁の近傍の溶着代において、表胴版の外周縁、すなわち第1側縁、第2側縁及び底縁の内側面で第1側縁の近傍の溶着代、第2側縁の近傍の溶着代、底縁の近傍の溶着代に溶着されて表胴版と連結され、且つ、長手方向に連続する、第1側襷部の裏側長手端縁の近傍の溶着代、底襷部の裏側長手端縁の近傍の溶着代及び第2側襷部の裏側長手端縁の近傍の溶着代において、裏胴版の外周縁、すなわち第1側縁、第2側縁及び底縁の近傍の内側面で第1側縁の近傍の溶着代、第2側縁の近傍の溶着代、底縁の近傍の溶着代に溶着されて、裏胴版と連結され、山折り折り目側がバッグの内側に向けて突き出るように、前記表側谷折り折り目とは反対側の表側端縁と表胴版とを連設され且つ前記裏側谷折り折り目とは反対側の裏側端縁と裏胴版とを連設されるとともに、底縁の内側面に接し合わされた底襷部の表側長手端縁の近傍の溶着代の内側面に、折り曲げ部において折り曲げられた挟着補強部が接し合わされて溶着され、且つ、底縁の内側面に接し合わされた底襷部の裏側長手端縁の近傍の溶着代の内側面に、折り曲げ部において折り曲げられた挟着補強部が接し合わされて溶着された、
バッグ。

【請求項2】

前記表胴版及び裏胴版は、硬いポリプロピレン板体であり、

前記襷部は、前記表胴版及び裏胴版の第1側縁及び第2側縁の長さとは底縁の長さとは対応する長さを有する平面視長形状の軟質オレフィンシートからなる襷部材で構成され、

襷部材は、第1角襷部及び第2角襷部で折り曲げられた状態において、

底襷部の表側長手端縁の近傍の溶着代及び裏側長手端縁の近傍の溶着代で、表胴版の底縁の溶着代及び裏胴版の底縁の内側の溶着代と接し合わされ、且つ、表側長手端縁の近傍の溶着代及び裏側長手端縁の近傍の溶着代の内側面にそれぞれその溶着代の形状に対応した表胴版の挟着補強部及び裏胴版の挟着補強部を折り曲げ部及び折り曲げ部において折り曲げて接し合わされ、一緒に同時に溶着された、

請求項1に記載のバッグ。

【請求項3】

表胴版及び裏胴版は、第1側縁の外側に折り曲げ部を介して連設された挟着補強部と、第2側縁の外側に折り曲げ部を介して連設された挟着補強部とを備え、

襷部材は、第1側縁の内側面に接し合わされた第1側襷部の表側長手端縁の近傍の溶着代の内側面に、折り曲げ部において折り曲げられた挟着補強部が接し合わされて溶着され、第2側縁の内側面に接し合わされた第2側襷部の表側長手端縁の近傍の溶着代の内側面に、折り曲げ部において折り曲げられた挟着補強部が接し合わされて溶着され、

且つ、第1側縁の内側面に接し合わされた第1側襷部の裏側長手端縁の近傍の溶着代の内側面に、折り曲げ部において折り曲げられた挟着補強部が接し合わされて溶着され、第2側縁の内側面に接し合わされた第2側襷部の裏側長手端縁の近傍の溶着代の内側面に、折り曲げ部において折り曲げられた挟着補強部が接し合わされて溶着された、

請求項1又は2に記載のバッグ。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

この発明は、バッグに関し、特に例えばプラスチックで形成される書類かばん等のバッグに関する。

【背景技術】

【 0 0 0 2 】

従来のかばんは、例えば特開平 7 - 2 2 5 7 号公報に記載されたようなものがあり、該かばんは、プラスチック片を、折線 (7) に沿って折り曲げて形成する容体 (1) を備え、該容体はその側面にプラスチック片の接合部 (1 0) を有し、その接合部を押圧状態で溶着することにより接合部をフラット状に形成されたかばん類等の収容体である。

【 0 0 0 3 】

【特許文献 1】特開平 7 - 2 2 5 7 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【 0 0 0 4 】

従来のこのかばん類等の収容体は、プラスチック片で容体を形成し、その容体の接合部を押圧状態で溶着することにより接合部をフラット状に形成しているが、収容体の中に書類等を入れて収容体を携帯すると、収容体の中に入れられた書類等の重みにより、特に底面部が下方に垂れ下がり、見栄えが悪くなり、携帯もしにくくなる。

【 0 0 0 5 】

それゆえに、この発明の主たる目的は、収容された物品の重みにより変形しにくいバッグを提供することである。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 6 】

この発明の請求項 1 にかかるバッグは、
正面方形の硬いプラスチック板体で形成された表胴版と、
背面方形の硬いプラスチック板体で形成された裏胴版と、
前記表胴版と裏胴版との間において前記表胴版及び裏胴版の第 1 側縁及び第 2 側縁と底縁とに、両長手端縁によって連設された襜部とを備え、

前記表胴版及び裏胴版は、

襜部材を溶着するための溶着代を備え、前記溶着代は、第 1 側縁、第 2 側縁及び底縁の内側面で、第 1 側縁の近傍の溶着代、第 2 側縁の近傍の溶着代、底縁の近傍の溶着代を含み、且つ、底縁の外側に折り曲げ部を介して連設された挟着補強部を備え、

前記襜部は、

表胴版及び裏胴版と溶着できる軟質プラスチックシートからなる襜部材で形成され、

前記表胴版の第 1 側縁及び裏胴版の第 1 側縁に対応する略方形の第 1 側襜部と、前記表胴版の第 2 側縁及び裏胴版の第 2 側縁に対応する略方形の第 2 側襜部と、前記表胴版の底縁及び裏胴版の底縁に対応する略方形の底襜部とを有し、

第 1 側襜部と底襜部との境界の近傍及び第 2 側襜部と底襜部との境界の近傍は、折り曲げられて、表胴版の第 1 側縁と、表胴版の底縁との境界の表胴版の第 1 角部及び裏胴版の第 1 側縁と、裏胴版の底縁との境界の裏胴版の第 1 角部に対応した、第 1 角襜部、並びに表胴版の第 2 側縁と、表胴版の底縁との境界の表胴版の第 2 角部及び裏胴版の第 2 側縁と、裏胴版の底縁との境界の裏胴版の第 2 角部に対応した、第 2 角襜部を形成され、

前記襜部は、表胴版の第 1 側縁及び第 2 側縁の長さ、底縁の長さに対応する長さを有する表側長手端縁を備えるとともに、裏胴版の第 1 側縁と第 2 側縁の長さ、底縁の長さに対応する長さを有する裏側長手端縁を備え、

前記第 1 角襜部は、

表側長手端縁及び裏側長手端縁と直交し、表胴版の第 1 角部と裏胴版の第 1 角部とを結ぶ線に対応する第 1 角折り目と、第 1 側襜部の山折り折り目から第 1 角折り目まで一直線状に続く第 2 角折り目と、底襜部の山折り折り目から第 1 角折り目まで一直線状に続く第 3 角折り目と、第 1 角折り目と裏側長手端縁との交点から第 1 側襜部の山折り折り目と第 2 角折り目との交点まで続く第 4 角折り目と、第 1 角折り目と裏側長手端縁との交点から底襜部の山折り折り目と第 3 角折り目との交点まで続く第 5 角折り目と、第 1 角折り目と表側長手端縁との交点から底襜部の山折り折り目と第 3 角折り目との交点まで続く第 6 角折り目と、第 1 角折り目と表側長手端縁との交点から第 1 側襜部の山折り折り目と第 2 角

10

20

30

40

50

折り目との交点まで続く第 7 角折り目とを備え、

第 1 角折り目において、バッグの外側に向けて谷折りされ表胴版の第 1 角部及び裏胴版の第 1 角部とを結ぶ線に対応した角部を形成され、

第 2 角折り目を、バッグの内側に向けて山折りされる山折り折り目に連続して内側に折り曲げ、第 1 角折り目と第 2 角折り目と第 4 角折り目とに囲まれた第 1 角襦面と、第 1 角折り目と第 2 角折り目と第 7 角折り目とに囲まれた第 2 角襦面とを、密着され、

底襦部と第 3 角折り目と第 5 角折り目及び第 6 角折り目との交点において底襦部と第 3 角折り目とを 90°折り曲げ、且つ第 5 角折り目と第 6 角折り目とは内側に折り曲げ、第 3 角折り目は、第 2 角折り目に密に接して折り曲げられ、

第 3 角折り目と第 5 角折り目と第 1 角折り目とに囲まれた第 3 角襦面と第 5 角折り目を挟んだ底襦部の第 5 角折り目近傍の面とを密着させるとともに、第 3 角折り目と第 6 角折り目と第 1 角折り目とに囲まれた第 4 角襦面と第 6 角折り目を挟んだ底襦部の第 6 角折り目の近傍の面とを密着され、

前記第 2 角襦部は、

表側長手端縁及び裏側長手端縁と直交し、表胴版の第 2 角部と裏胴版の第 2 角部とを結ぶ線に対応する第 1 角折り目と、第 1 側襦部の山折り折り目から第 1 角折り目まで一直線状に続く第 2 角折り目と、底襦部の山折り折り目から第 1 角折り目まで一直線状に続く第 3 角折り目と、第 1 角折り目と裏側長手端縁との交点から第 2 側襦部の山折り折り目と第 2 角折り目との交点まで続く第 4 角折り目と、第 1 角折り目と裏側長手端縁との交点から底襦部の山折り折り目と第 3 角折り目との交点まで続く第 5 角折り目と、第 1 角折り目と表側長手端縁との交点から底襦部の山折り折り目と第 3 角折り目との交点まで続く第 6 角折り目と、第 1 角折り目と表側長手端縁との交点から第 1 側襦部の山折り折り目と第 2 角折り目との交点まで続く第 7 角折り目とを備え、

第 1 角折り目において、バッグの外側に向けて谷折りされ表胴版の第 2 角部及び裏胴版の第 2 角部とを結ぶ線に対応した角部を形成され、

第 2 角折り目を、バッグの内側に向けて山折りされる山折り折り目に連続して内側に折り曲げ、第 1 角折り目と第 2 角折り目と第 4 角折り目との囲まれた第 1 角襦面と、第 1 角折り目と第 2 角折り目と第 4 角折り目とに囲まれた面とを、密着され、

底襦部と第 3 角折り目と第 5 角折り目及び第 6 角折り目との交点において底襦部と第 3 角折り目とを 90°折り曲げ、且つ第 5 角折り目と第 6 角折り目とは内側に折り曲げ、第 3 角折り目は、第 2 角折り目に密に接して折り曲げられ、

第 3 角折り目と第 5 角折り目と第 1 角折り目とに囲まれた第 3 角襦面と第 5 角折り目を挟んだ底襦部の第 5 角折り目近傍の面とを密着させるとともに、第 3 角折り目と第 6 角折り目と第 1 角折り目とに囲まれた第 4 角襦面と第 6 角折り目を挟んだ底襦部の第 6 角折り目の近傍の面とを密着され、

前記襦部材は、

第 1 側襦部の表側長手端縁の近傍の溶着代及び裏側長手端縁の近傍の溶着代と、底襦部の表側長手端縁の近傍の溶着代及び裏側長手端縁の近傍の溶着代と、第 2 側襦部の表側長手端縁の近傍の溶着代及び裏側長手端縁の近傍の溶着代とを備え、

表側長手端縁と裏側長手端縁との間において、長手方向に連続して形成された山折り折り目と、前記山折り折り目の幅方向における両側に前記山折り折り目に沿って長手方向に連続して形成された表側谷折り折り目と裏側谷折り折り目とを形成され、前記山折り折り目と表側谷折り折り目との間と前記山折り折り目と裏側谷折り折り目との間を接着されて補強部が形成され、

長手方向に連続する、表側長手端縁の第 1 側襦部の表側長手端縁の近傍の溶着代、底襦部の表側長手端縁の近傍の溶着代及び第 2 側襦部の表側長手端縁の近傍の溶着代において、表胴版の外周縁、すなわち第 1 側縁、第 2 側縁及び底縁の内側面で第 1 側縁の近傍の溶着代、第 2 側縁の近傍の溶着代、底縁の近傍の溶着代に溶着されて表胴版と連結され、且つ、長手方向に連続する、第 1 側襦部の裏側長手端縁の近傍の溶着代、底襦部の裏側長手端縁の近傍の溶着代及び第 2 側襦部の裏側長手端縁の近傍の溶着代において、裏胴版の外

10

20

30

40

50

周縁、すなわち第 1 側縁、第 2 側縁及び底縁の近傍の内側面で第 1 側縁の近傍の溶着代、第 2 側縁の近傍の溶着代、底縁の近傍の溶着代に溶着されて、裏胴版と連結され、山折り折り目側がバッグの内側に向けて突き出るように、前記表側谷折り折り目とは反対側の表側端縁と表胴版とを連設され且つ前記裏側谷折り折り目とは反対側の裏側端縁と裏胴版とを連設されるとともに、底縁の内側面に接し合わされた底襜部の表側長手端縁の近傍の溶着代の内側面に、折り曲げ部において折り曲げられた挟着補強部が接し合わされて溶着され、且つ、底縁の内側面に接し合わされた底襜部の裏側長手端縁の近傍の溶着代の内側面に、折り曲げ部において折り曲げられた挟着補強部が接し合わされて溶着されている。

この発明の請求項 2 にかかるバッグは、前記表胴版及び裏胴版は、硬いポリプロピレン板体であり、前記襜部は、前記表胴版及び裏胴版の第 1 側縁及び第 2 側縁の長さ
10 長さとは対応する長さを有する平面視長方形の軟質オレフィンシートからなる襜部材で構成され、襜部材は、第 1 角襜部及び第 2 角襜部で折り曲げられた状態において、底襜部の表側長手端縁の近傍の溶着代及び裏側長手端縁の近傍の溶着代で、表胴版の底縁の溶着代及び裏胴版の底縁の内側の溶着代と接し合わされ、且つ、表側長手端縁の近傍の溶着代及び裏側長手端縁の近傍の溶着代の内側面にそれぞれその溶着代の形状に対応した表胴版の挟着補強部及び裏胴版の挟着補強部を折り曲げ部及び折り曲げ部において折り曲げて接し合わされ、一緒に同時に溶着された、請求項 1 に記載のバッグである。

この発明の請求項 3 にかかるバッグは、表胴版及び裏胴版は、第 1 側縁の外側に折り曲げ部を介して連設された挟着補強部と、第 2 側縁の外側に折り曲げ部を介して連設された挟着補強部とを備え、襜部材は、第 1 側縁の内側面に接し合わされた第 1 側襜部の表側長
20 手端縁の近傍の溶着代の内側面に、折り曲げ部において折り曲げられた挟着補強部が接し合わされて溶着され、第 2 側縁の内側面に接し合わされた第 2 側襜部の表側長手端縁の近傍の溶着代の内側面に、折り曲げ部において折り曲げられた挟着補強部が接し合わされて溶着され、且つ、第 1 側縁の内側面に接し合わされた第 1 側襜部の裏側長手端縁の近傍の溶着代の内側面に、折り曲げ部において折り曲げられた挟着補強部が接し合わされて溶着され、第 2 側縁の内側面に接し合わされた第 2 側襜部の裏側長手端縁の近傍の溶着代の内側面に、折り曲げ部において折り曲げられた挟着補強部が接し合わされて溶着された、請求項 1 又は 2 に記載のバッグである。

【発明の効果】

【0007】

この発明によれば、正面方形の硬いプラスチック板体で形成された表胴版と、背面方形の硬いプラスチック板体で形成された裏胴版と、前記表胴版と裏胴版との間において前記表胴版及び裏胴版の第 1 側縁及び第 2 側縁と底縁とに、両長手端縁によって連設された襜部とを備え、前記表胴版及び裏胴版は、襜部材を溶着するための溶着代を備え、前記溶着代は、第 1 側縁、第 2 側縁及び底縁の内側面で、第 1 側縁の近傍の溶着代、第 2 側縁の近傍の溶着代、底縁の近傍の溶着代を含み、且つ、底縁の外側に折り曲げ部を介して連設された挟着補強部を備え、前記襜部は、表胴版及び裏胴版と溶着できる軟質プラスチックシートからなる襜部材で形成され、前記表胴版の第 1 側縁及び裏胴版の第 1 側縁に対応する略方形の第 1 側襜部と、前記表胴版の第 2 側縁及び裏胴版の第 2 側縁に対応する略方形の第 2 側襜部と、前記表胴版の底縁及び裏胴版の底縁に対応する略方形の底襜部とを有し、第 1 側襜部と底襜部との境界の近傍及び第 2 側襜部と底襜部との境界の近傍は、折り曲げられて、表胴版の第 1 側縁と、表胴版の底縁との境界の表胴版の第 1 角部及び裏胴版の第 1 側縁と、裏胴版の底縁との境界の裏胴版の第 1 角部に対応した、第 1 角襜部、並びに表胴版の第 2 側縁と、表胴版の底縁との境界の表胴版の第 2 角部及び裏胴版の第 2 側縁と、裏胴版の底縁との境界の裏胴版の第 2 角部に対応した、第 2 角襜部を形成され、前記襜部は、表胴版の第 1 側縁及び第 2 側縁の長さ
40 と底縁の長さとは対応する長さを有する表側長手端縁を備えるとともに、裏胴版の第 1 側縁と第 2 側縁の長さとは対応する長さを有する裏側長手端縁を備え、前記第 1 角襜部は、表側長手端縁及び裏側長手端縁と直交し、表胴版の第 1 角部と裏胴版の第 1 角部とを結ぶ線に対応する第 1 角折り目と、第 1 側襜部の山折り折り目から第 1 角折り目まで一直線状に続く第 2 角折り目と、底襜
50

部の山折り折り目から第1角折り目まで一直線状に続く第3角折り目と、第1角折り目と裏側長手端縁との交点から第1側襷部の山折り折り目と第2角折り目との交点まで続く第4角折り目と、第1角折り目と裏側長手端縁との交点から底襷部の山折り折り目と第3角折り目との交点まで続く第5角折り目と、第1角折り目と表側長手端縁との交点から底襷部の山折り折り目と第3角折り目との交点まで続く第6角折り目と、第1角折り目と表側長手端縁との交点から第1側襷部の山折り折り目と第2角折り目との交点まで続く第7角折り目とを備え、第1角折り目において、バッグの外側に向けて谷折りされ表胴版の第1角部及び裏胴版の第1角部とを結ぶ線に対応した角部を形成され、第2角折り目を、バッグの内側に向けて山折りされる山折り折り目に連続して内側に折り曲げ、第1角折り目と第2角折り目と第4角折り目とに囲まれた第1角襷面と、第1角折り目と第2角折り目と第7角折り目とに囲まれた第2角襷面とを、密着され、底襷部と第3角折り目と第5角折り目及び第6角折り目との交点において底襷部と第3角折り目とを90°折り曲げ、且つ第5角折り目と第6角折り目とは内側に折り曲げ、第3角折り目は、第2角折り目に密に接して折り曲げられ、第3角折り目と第5角折り目と第1角折り目とに囲まれた第3角襷面と第5角折り目を挟んだ底襷部の第5角折り目近傍の面とを密着させるとともに、第3角折り目と第6角折り目と第1角折り目とに囲まれた第4角襷面と第6角折り目を挟んだ底襷部の第6角折り目の近傍の面とを密着され、前記第2角襷部は、表側長手端縁及び裏側長手端縁と直交し、表胴版の第2角部と裏胴版の第2角部とを結ぶ線に対応する第1角折り目と、第1側襷部の山折り折り目から第1角折り目まで一直線状に続く第2角折り目と、底襷部の山折り折り目から第1角折り目まで一直線状に続く第3角折り目と、第1角折り目と裏側長手端縁との交点から第2側襷部の山折り折り目と第2角折り目との交点まで続く第4角折り目と、第1角折り目と裏側長手端縁との交点から底襷部の山折り折り目と第3角折り目との交点まで続く第5角折り目と、第1角折り目と表側長手端縁との交点から底襷部の山折り折り目と第3角折り目との交点まで続く第6角折り目と、第1角折り目と表側長手端縁との交点から第1側襷部の山折り折り目と第2角折り目との交点まで続く第7角折り目とを備え、第1角折り目において、バッグの外側に向けて谷折りされ表胴版の第2角部及び裏胴版の第2角部とを結ぶ線に対応した角部を形成され、第2角折り目を、バッグの内側に向けて山折りされる山折り折り目に連続して内側に折り曲げ、第1角折り目と第2角折り目と第4角折り目との囲まれた第1角襷面と、第1角折り目と第2角折り目と第4角折り目とに囲まれた面とを、密着され、底襷部と第3角折り目と第5角折り目及び第6角折り目との交点において底襷部と第3角折り目とを90°折り曲げ、且つ第5角折り目と第6角折り目とは内側に折り曲げ、第3角折り目は、第2角折り目に密に接して折り曲げられ、第3角折り目と第5角折り目と第1角折り目とに囲まれた第3角襷面と第5角折り目を挟んだ底襷部の第5角折り目近傍の面とを密着させるとともに、第3角折り目と第6角折り目と第1角折り目とに囲まれた第4角襷面と第6角折り目を挟んだ底襷部の第6角折り目の近傍の面とを密着され、前記襷部材は、第1側襷部の表側長手端縁の近傍の溶着代及び裏側長手端縁の近傍の溶着代と、底襷部の表側長手端縁の近傍の溶着代及び裏側長手端縁の近傍の溶着代と、第2側襷部の表側長手端縁の近傍の溶着代及び裏側長手端縁の近傍の溶着代とを備え、表側長手端縁と裏側長手端縁との間において、長手方向に連続して形成された山折り折り目と、前記山折り折り目の幅方向における両側に前記山折り折り目に沿って長手方向に連続して形成された表側谷折り折り目と裏側谷折り折り目とを形成され、前記山折り折り目と表側谷折り折り目との間と前記山折り折り目と裏側谷折り折り目との間を接着されて補強部が形成され、長手方向に連続する、表側長手端縁の第1側襷部の表側長手端縁の近傍の溶着代、底襷部の表側長手端縁の近傍の溶着代及び第2側襷部の表側長手端縁の近傍の溶着代において、表胴版の外周縁、すなわち第1側縁、第2側縁及び底縁の内側面で第1側縁の近傍の溶着代、第2側縁の近傍の溶着代、底縁の近傍の溶着代に溶着されて表胴版と連結され、且つ、長手方向に連続する、第1側襷部の裏側長手端縁の近傍の溶着代、底襷部の裏側長手端縁の近傍の溶着代及び第2側襷部の裏側長手端縁の近傍の溶着代において、裏胴版の外周縁、すなわち第1側縁、第2側縁及び底縁の近傍の内側面で第1側縁の近傍の溶着代、第2側縁の近傍の溶着代、底縁の

10

20

30

40

50

近傍の溶着代に溶着されて、裏胴版と連結され、山折り折り目側がバッグの内側に向けて突き出るように、前記表側谷折り折り目とは反対側の表側端縁と表胴版とを連設され且つ前記裏側谷折り折り目とは反対側の裏側端縁と裏胴版とを連設されるとともに、底縁の内側面に接し合わされた底襜部の表側長手端縁の近傍の溶着代の内側面に、折り曲げ部において折り曲げられた挟着補強部が接し合わされて溶着され、且つ、底縁の内側面に接し合わされた底襜部の裏側長手端縁の近傍の溶着代の内側面に、折り曲げ部において折り曲げられた挟着補強部が接し合わされて溶着されているので、襜部及び胴版が補強されて変形しにくく、耐久性に優れたバッグを得ることができる。

請求項 2 の発明によれば、前記表胴版及び裏胴版は、硬いポリプロピレン板体であり、前記襜部は、前記表胴版及び裏胴版の第 1 側縁及び第 2 側縁の長さとは対応する長さを有する平面視長形状の軟質オレフィンシートからなる襜部材で構成され、襜部材は、第 1 角襜部及び第 2 角襜部で折り曲げられた状態において、底襜部の表側長手端縁の近傍の溶着代及び裏側長手端縁の近傍の溶着代で、表胴版の底縁の溶着代及び裏胴版の底縁の内側の溶着代と接し合わされ、且つ、表側長手端縁の近傍の溶着代及び裏側長手端縁の近傍の溶着代の内側面にそれぞれその溶着代の形状に対応した表胴版の挟着補強部及び裏胴版の挟着補強部を折り曲げ部及び折り曲げ部において折り曲げて接し合わされ、一緒に同時に溶着されているので、襜部及び胴版部が補強されてその中に収容された物品等の重みにより変形することがない。

請求項 3 の発明によれば、表胴版及び裏胴版は、第 1 側縁の外側に折り曲げ部を介して連設された挟着補強部と、第 2 側縁の外側に折り曲げ部を介して連設された挟着補強部とを備え、襜部材は、第 1 側縁の内側面に接し合わされた第 1 側襜部の表側長手端縁の近傍の溶着代の内側面に、折り曲げ部において折り曲げられた挟着補強部が接し合わされて溶着され、第 2 側縁の内側面に接し合わされた第 2 側襜部の表側長手端縁の近傍の溶着代の内側面に、折り曲げ部において折り曲げられた挟着補強部が接し合わされて溶着され、且つ、第 1 側縁の内側面に接し合わされた第 1 側襜部の裏側長手端縁の近傍の溶着代の内側面に、折り曲げ部において折り曲げられた挟着補強部が接し合わされて溶着され、第 2 側縁の内側面に接し合わされた第 2 側襜部の裏側長手端縁の近傍の溶着代の内側面に、折り曲げ部において折り曲げられた挟着補強部が接し合わされて溶着されているので、襜部材の底襜部及び第 1 側襜部と第 2 側襜部とが補強され、収容された物品の重みにより変形することが少ない。

【 0 0 0 8 】

この発明の上述の目的、その他の目的、特徴および利点は、図面を参照して行う以下の発明の実施の形態の詳細な説明から一層明らかとなろう。

この発明の説明において、バッグの正面側を表といい、背面側を裏ということがあり、正面から見て左側を左、右側を右ということがあり、収容部内を内、収容部外を外ということがある。

【発明を実施するための最良の形態】

【 0 0 0 9 】

図 1 は、この発明にかかる一実施の形態であるバッグを示す斜視図解図であり、図 2 は、図 1 図示バッグの掩蓋部を開いた状態を示す斜視図解図である。図 3 は、図 1 図示バッグの横断面図解図であり、図 4 は、図 1 図示バッグの要部の縦断面図解図である。図 5 は、図 1 に示すバッグに用いられる襜部材を示す展開図である。図 6 は、図 1 に示すバッグの襜部を作る工程を示す横断面図解図であり、図 7 は、図 1 に示すバッグの襜部を作る工程を示す横断面図解図である。図 8 は、図 1 に示すバッグの襜部を作る工程を示す斜視図解図であり、図 9 は、図 1 に示すバッグの襜部を作る工程を示す斜視図解図である。

【 0 0 1 0 】

このバッグ 1 0 は、例えばポリプロピレン等のポリオレフィン樹脂、塩化ビニール等の合成樹脂からなり、正面方形の表胴版 1 2 と、前記表胴版 1 2 と同一形状の背面方形の裏胴版 1 4 と、前記表胴版 1 2 と裏胴版 1 4 との間において前記表胴版 1 2 及び裏胴版 1 4 の外周縁に沿って連設された襜部 1 6 とを備える。

前記襷部 1 6 が連設されていない表胴版 1 2 及び裏胴版 1 4 の上端縁は、開口された開口部 1 8 と、前記裏胴版 1 4 より連設された開口部 1 8 を覆う掩蓋部 2 0 とを備え、表胴版 1 2 と裏胴版 1 4 と襷部 1 6 とに圍繞された空間に開口部 1 8 に続く収容部が形成される。

【 0 0 1 1 】

前記表胴版 1 2 及び裏胴版 1 4 は、比較的硬い正面視方形状板体で両者が略々同一形状・同一素材であり、襷部 1 6 と溶着できるポリプロピレン等の合成樹脂シートからなる。

表胴版 1 2 は、バッグの正面から見て、左側の第 1 側縁 3 0 と右側の第 2 側縁 3 2 と底縁 3 4 とを備える。

又、裏胴版 1 4 は、バッグの正面から見て、左側の第 1 側縁 4 0 と右側の第 2 側縁 4 2 と底縁 4 4 とを備える。

【 0 0 1 2 】

襷部 1 6 は、表胴版 1 2 の第 1 側縁 3 0 及び第 2 側縁 3 2 の長さ、底縁 3 4 の長さに対応する長さを有する表側長手端縁 5 2 を備えるとともに、裏胴版 1 4 の第 1 側縁 4 0 と第 2 側縁 4 2 の長さ、底縁 4 4 の長さに対応する長さを有する裏側長手端縁 5 4 を備える、表胴版 1 2 及び裏胴版 1 4 と溶着できる平面視長方形状のポリオレフィン等の軟質プラスチックシートからなる襷部材 5 0 で形成されている。

【 0 0 1 3 】

前記襷部 1 6 は、前記表胴版 1 2 と裏胴版 1 4 との間において、前記表胴版 1 2 の第 1 側縁 3 0 及び第 2 側縁 3 2 と底縁 3 4 と、裏胴版 1 4 の第 1 側縁 4 0 及び第 2 側縁 4 2 と底縁 4 4 とに、表側長手端縁 5 2 及び裏側長手端縁 5 4 によって連設され、表側長手端縁 5 2 の内側面及び裏側長手端縁 5 4 の内側面には、その溶着代に対応した補強材 2 2 が溶着され、且つ表側長手端縁 5 2 と裏側長手端縁 5 4 との間の略中央において、その長手方向に連続しバッグの内側に向けて突き出る補強部 2 4 を備える。

襷部 1 6 は、前記表胴版 1 2 の第 1 側縁 3 0 及び裏胴版 1 4 の第 1 側縁 4 0 に対応する略方形状の第 1 側襷部 6 2 と、前記表胴版 1 2 の第 2 側縁 3 2 及び裏胴版 1 4 の第 2 側縁 4 2 に対応する略方形状の第 2 側襷部 6 6 と、前記表胴版 1 2 の底縁 3 4 及び裏胴版 1 4 の底縁 4 4 に対応する略方形状の底襷部 6 4 とを有する。

【 0 0 1 4 】

前記襷部材 5 0 は、表側長手端縁 5 2 と裏側長手端縁 5 4 との間において、表側長手端縁 5 2 と裏側長手端縁 5 4 とに平行に長手方向に連続して形成された山折り折り目 5 6 と、前記山折り折り目 5 6 の幅方向における両側に前記山折り折り目 5 6 に沿って平行で長手方向に連続して形成された表側谷折り折り目 5 8 と裏側谷折り折り目 6 0 とを形成され、前記山折り折り目 5 6 と表側谷折り折り目 5 8 との間と前記山折り折り目 5 6 と裏側谷折り折り目 6 0 との間を接着されて補強部 2 4 が形成されるとともに、補強部 2 4 の山折り折り目 5 6 側がバッグの内側に向けて突き出るように前記表側谷折り折り目 5 8 とは反対側の表側長手端縁 5 2 の内側面と表胴版 1 2 とが連設され、且つ前記裏側谷折り折り目 6 0 とは反対側の裏側長手端縁 5 4 の内側面と裏胴版 1 4 とが連設されている。

【 0 0 1 5 】

前記襷部材 5 0 は、平面視略長方形状の熱可塑性軟質プラスチックシートからなり、前記表胴版 1 2 及び裏胴版 1 4 は、比較的硬い熱可塑性プラスチック板体であり、熱融着性を有する。

襷部材 5 0 は、第 1 側襷部 6 2 の表側長手端縁 5 2 の近傍の略台形状の溶着代 1 1 0 及び裏側長手端縁 5 4 の近傍の略台形状の溶着代 1 1 2 と、底襷部 6 4 の表側長手端縁 5 2 の近傍の略台形状の溶着代 1 1 4 及び裏側長手端縁 5 4 の近傍の略台形状の溶着代 1 1 6 と、第 2 側襷部 6 6 の表側長手端縁 5 2 の近傍の略台形状の溶着代 1 1 8 及び裏側長手端縁 5 4 の近傍の略台形状の溶着代 1 2 0 とを備える。

前記襷部材 5 0 は、長手方向に連続する、表側長手端縁 5 2 の第 1 側襷部 6 2 の表側長手端縁 5 2 の近傍の溶着代 1 1 0、底襷部 6 4 の表側長手端縁 5 2 の近傍の溶着代 1 1 4 及び第 2 側襷部 6 6 の表側長手端縁 5 2 の近傍の溶着代 1 1 8 において、表胴版 1 2 の外

10

20

30

40

50

周縁、すなわち第1側縁30、第2側縁32及び底縁34の内側で第1側縁30の近傍の溶着代30a、第2側縁32の近傍の溶着代32a、底縁34の近傍の溶着代34aに溶着されて表胴版12と連結されている(図10参照)。

そして、長手方向に連続する、第1側襠部62の裏側長手端縁54の近傍の溶着代112、底襠部64の裏側長手端縁54の近傍の溶着代116及び第2側襠部66の裏側長手端縁54の近傍の溶着代120において、裏胴版14の外周縁、すなわち第1側縁40、第2側縁42及び底縁44の近傍の内側で第1側縁40の近傍の溶着代40a、第2側縁42の近傍の溶着代42a、底縁44の近傍の溶着代44aに溶着されて、裏胴版14と連設される。

第1側縁40の近傍の溶着代40a、第2側縁42の近傍の溶着代42a、底縁44の近傍の溶着代44aは、表胴版12の溶着代30a、32a、34aと同様に形成され、第2側縁42の近傍の溶着代42aは、第1側縁40の近傍の溶着代40aと同様に形成されている。

【0016】

前記襠部材50は、前記山折り折り目56と表側谷折り折り目58との間と、前記山折り折り目56と裏側谷折り折り目60との間とが、へり返しされ表側谷折り折り目58と裏側谷折り折り目60を揃えて突き合わされ左側の第1側襠部62と底襠部64との境界の近傍及び右側の第2側襠部66と底襠部64との境界の近傍を除いて溶着されて、補強部24が形成されている。そして、第1側襠部62と底襠部64との境界の近傍及び第2側襠部66と底襠部64との境界の近傍は、折り曲げられて、表胴版12及び裏胴版14の第1側縁30及び第1側縁40と底縁34及び底縁44との境界の第1角部36及び第1角部46に対応した、第1角襠部70、並びに第2側縁32及び第2側縁42と底縁34及び底縁44との境界の第2角部38及び第2角部48に対応した、第2角襠部90を形成されている。

【0017】

第1角襠部70は、表側長手端縁52及び裏側長手端縁54と直交し、表胴版12の第1角部36と裏胴版14の第1角部46とを結ぶ線に対応する第1角折り目72と、第1側襠部62の山折り折り目56から第1角折り目72まで一直線状に続く第2角折り目74と、底襠部64の山折り折り目56から第1角折り目72まで一直線状に続く第3角折り目76と、第1角折り目72と裏側長手端縁54との交点から第1側襠部62の山折り折り目56と第2角折り目74との交点まで続く第4角折り目78と、第1角折り目72と裏側長手端縁54との交点から底襠部64の山折り折り目56と第3角折り目76との交点まで続く第5角折り目80と、第1角折り目72と表側長手端縁52との交点から底襠部64の山折り折り目56と第3角折り目76との交点まで続く第6角折り目82と、第1角折り目72と表側長手端縁52との交点から第1側襠部62の山折り折り目56と第2角折り目74との交点まで続く第7角折り目84とを備える。

第4角折り目78と第5角折り目80と第2角折り目74及び第3角折り目76とにより二等辺三角形を形成し、第6角折り目82と第7角折り目84と第2角折り目74及び第3角折り目76とにより二等辺三角形を形成する。

【0018】

第2角襠部90は、表側長手端縁52及び裏側長手端縁54と直交し、表胴版12の第2角部38と裏胴版14の第2角部48とを結ぶ線に対応する第1角折り目92と、第1側襠部66の山折り折り目56から第1角折り目92まで一直線状に続く第2角折り目94と、底襠部64の山折り折り目56から第1角折り目92まで一直線状に続く第3角折り目96と、第1角折り目92と裏側長手端縁94との交点から第2側襠部66の山折り折り目56と第2角折り目94との交点まで続く第4角折り目98と、第1角折り目92と裏側長手端縁54との交点から底襠部64の山折り折り目56と第3角折り目96との交点まで続く第5角折り目100と、第1角折り目92と表側長手端縁52との交点から底襠部64の山折り折り目56と第3角折り目96との交点まで続く第6角折り目102と、第1角折り目92と表側長手端縁52との交点から第1側襠部66の山折り折り目5

10

20

30

40

50

6と第2角折り目94との交点まで続く第7角折り目104とを備える。

第4角折り目98と第5角折り目100と第2角折り目94及び第3角折り目96とにより二等辺三角形を形成し、第6角折り目102と第7角折り目104と第2角折り目94及び第3角折り目96とにより二等辺三角形を形成する。

【0019】

第1角折り目72, 第2角折り目74, 第3角折り目76, 第4角折り目78, 第5角折り目80, 第6角折り目82及び第7角折り目84は、直線状で、第4角折り目78と第5角折り目80と第6角折り目82と第7角折り目84とによって平面視正方形を構成し、第1角折り目72と第2角折り目74及び第3角折り目76とは、前記正方形の対角線を構成する。

【0020】

第1角折り目92, 第2角折り目94, 第3角折り目96, 第4角折り目98, 第5角折り目100, 第6角折り目102及び第7角折り目104は、直線状で、第4角折り目98と第5角折り目100と第6角折り目102と第7角折り目104とによって平面視正方形を構成し、第1角折り目92と第2角折り目94及び第3角折り目96とは、前記正方形の対角線を構成する。

【0021】

第2角折り目74は、バッグの内側に向けて山折りされる山折り折り目56に連続して内側に折れ曲がり、第1角折り目72と第2角折り目74と第4角折り目78とに囲まれた略二等辺三角形形状の第1角襷面70aと、第1角折り目72と第2角折り目74と第7角折り目84とに囲まれた略二等辺三角形形状の第2角襷面70bとは、密着する。第1角襷面70aと第2角襷面70bとは、第2角折り目74を中心とした線対称形である。

そして、底襷部64と第3角折り目76と第5角折り目80及び第6角折り目82との交点において底襷部64と第3角折り目76とが90°折れ曲がり、且つ第5角折り目80と第6角折り目82とは内側に折れ曲がり、第3角折り目76は、第2角折り目74に密に接して折れ曲がる。

そして、第3角折り目76と第5角折り目80と第1角折り目72とに囲まれた略二等辺三角形形状の第3角襷面70cと第5角折り目80を挟んだ底襷部64の第5角折り目80近傍の面とが密着するとともに、第3角折り目76と第6角折り目82と第1角折り目72とに囲まれた略二等辺三角形形状の第4角襷面70dと第6角折り目82を挟んだ底襷部64の第6角折り目82の近傍の面とが密着する。第3角襷面70cと第2角襷面70bとは、第3角折り目76を中心とした線対称形である。

角襷部70は、以上のように形成される。

【0022】

第1角折り目92は、バッグの外側に向けて谷折りされて表胴版12の第2角部38及び裏胴版14の第2角部48とを結ぶ線に対応した角部を形成する。

第2角折り目94は、バッグの内側に向けて山折りされる山折り折り目56に連続して内側に折れ曲がり、第1角折り目92と第2角折り目94と第4角折り目98との囲まれた略二等辺三角形形状の第1角襷面90aと、第1角折り目92と第2角折り目94と第4角折り目104とに囲まれた略二等辺三角形形状の第2角襷面90bとは、密着する。第1角襷面90aと第2角襷面90bとは、第2角折り目94を中心とした線対称形である。

そして、底襷部64と第3角折り目96と第5角折り目100及び第6角折り目102との交点において底襷部64と第3角折り目96とが90°折れ曲がり、且つ第5角折り目100と第6角折り目102とは内側に折れ曲がり、第3角折り目96は、第2角折り目94に密に接して折れ曲がる。

そして、第3角折り目96と第5角折り目100と第1角折り目92とに囲まれた略二等辺三角形形状の第3角襷面90cと第5角折り目100を挟んだ底襷部64の第5角折り目100近傍の面とが密着するとともに、第3角折り目96と第6角折り目102と第1角折り目92とに囲まれた略二等辺三角形形状の第4角襷面90dと第6角折り目102を挟んだ底襷部64の第6角折り目102の近傍の面とが密着する。第3角襷面90cと第

10

20

30

40

50

4角襷面90dとは、第3角折り目96を中心とした線対称形である。

角襷部90は、以上のように形成される。

【0023】

次に、この発明にかかるバッグの製造方法について、主として図5ないし図10に基づいて説明する。

【0024】

まず、襷部材50をもって襷部16を形成する方法について説明する。

第1角折り目72において、バッグの外側に向けて谷折りし表胴版12の第1角部36及び裏胴版14の第1角部46とを結ぶ線に対応した角部を形成する。

第2角折り目74を、バッグの内側に向けて山折りされる山折り折り目56に連続して内側に折り曲げ、第1角折り目72と第2角折り目74と第4角折り目78とに囲まれた第1角襷面70aと、第1角折り目72と第2角折り目74と第7角折り目84とに囲まれた第2角襷面70bとを、密着する。

そして、底襷部64と第3角折り目76と第5角折り目80及び第6角折り目82との交点において底襷部64と第3角折り目76とを90°折り曲げ、且つ第5角折り目80と第6角折り目82とは内側に折り曲げ、第3角折り目76は、第2角折り目74に密に接して折り曲げる。

そして、第3角折り目76と第5角折り目80と第1角折り目72とに囲まれた第3角襷面70cと第5角折り目80を挟んだ底襷部64の第5角折り目80近傍の面とを密着させるとともに、第3角折り目76と第6角折り目82と第1角折り目72とに囲まれた第4角襷面70dと第6角折り目82を挟んだ底襷部64の第6角折り目82の近傍の面とを密着させる。

角襷部70は、以上のようにして形成される。

【0025】

第1角折り目92において、バッグの外側に向けて谷折りし表胴版12の第2角部38及び裏胴版14の第2角部48とを結ぶ線に対応した角部を形成する。

第2角折り目94を、バッグの内側に向けて山折りされる山折り折り目56に連続して内側に折り曲げ、第1角折り目92と第2角折り目94と第4角折り目98との囲まれた第1角襷面90aと、第1角折り目92と第2角折り目94と第4角折り目104とに囲まれた面とを、密着する。

そして、底襷部64と第3角折り目96と第5角折り目100及び第6角折り目102との交点において底襷部64と第3角折り目96とを90°折り曲げ、且つ第5角折り目100と第6角折り目102とは内側に折り曲げ、第3角折り目96は、第2角折り目94に密に接して折り曲げる。

そして、第3角折り目96と第5角折り目100と第1角折り目92とに囲まれた第3角襷面90cと第5角折り目100を挟んだ底襷部64の第5角折り目100近傍の面とを密着させるとともに、第3角折り目96と第6角折り目102と第1角折り目92とに囲まれた第4角襷面90dと第6角折り目102を挟んだ底襷部64の第6角折り目102の近傍の面とを密着させる。

角襷部90は、以上のようにして形成される。

【0026】

次に、襷部材50は、第1角襷部70及び第4角襷面90で折り曲げられた状態において、第1側襷部材62の表側長手端縁52の近傍の溶着代110及び裏側長手端縁54の近傍の溶着代112で、表胴版12の第1側縁30及び裏胴版14の第1側縁40の内側の溶着代と接し合わせ、更に、表側長手端縁52の近傍の溶着代110及び裏側長手端縁54の近傍の溶着代112の内側面にそれぞれその溶着代の形状に対応した表胴版12及び裏胴版14と同一の素材であるポリプロピレンシートからなる長形状の補強材22を接し合わせ、一緒に同時に溶着する。

そして、底襷部64の表側長手端縁52の近傍の溶着代114及び裏側長手端縁54の近傍の溶着代116で、表胴版12の底縁34及び裏胴版14の底縁44の内側の溶着代

10

20

30

40

50

と接し合わせ、更に、表側長手端縁 5 2 の近傍の溶着代 1 1 4 及び裏側長手端縁 5 4 の近傍の溶着代 1 1 6 の内側面にそれぞれその溶着代の形状に対応した表胴版 1 2 及び裏胴版 1 4 と同一の素材であるポリプロピレンシートからなる長方形の補強材 2 2 を接し合わせ、一緒に同時に溶着する。

更に、第 2 側襜部 6 6 の表側長手端縁 5 2 の近傍の溶着代 1 1 8 及び裏側長手端縁 5 4 の近傍の溶着代 1 2 0 で、表胴版 1 1 2 の第 2 側縁 3 2 及び裏胴版 1 4 の第 2 側縁 4 2 の内側の溶着代と接し合わせ、更に、表側長手端縁 5 2 の近傍の溶着代 1 1 8 及び裏側長手端縁 5 4 の近傍の溶着代 1 2 0 の内側面にそれぞれその溶着代の形状に対応した表胴版 1 2 及び裏胴版 1 4 と同一の素材であるポリプロピレンシートからなる長方形の補強材 2 2 を接し合わせ、一緒に同時に溶着する。

10

なお、第 1 側襜部材 6 2 の表側長手端縁 5 2 の近傍の溶着代 1 1 0 は折り罫 1 1 0 a で、裏側長手端縁 5 4 の近傍の溶着代 1 1 2 は折り罫 1 1 2 a で、底襜部 6 4 の表側長手端縁 5 2 の近傍の溶着代 1 1 4 は折り罫 1 1 4 a で、裏側長手端縁 5 4 の近傍の溶着代 1 1 6 は折り罫 1 1 6 a で、第 2 側襜部 6 6 の表側長手端縁 5 2 の近傍の溶着代 1 1 8 は折り罫 1 1 8 a で、裏側長手端縁 5 4 の近傍の溶着代 1 2 0 は折り罫 1 2 0 a で、それぞれの内側面を外側すなわち表胴版 1 2 及び裏胴版 1 4 側に向けて折り、第 1 側襜部材 6 2 の表側長手端縁 5 2 の近傍の溶着代 1 1 0 は表胴版 1 2 の第 1 側縁 3 0 の左端縁に、裏側長手端縁 5 4 の近傍の溶着代 1 1 2 は裏胴版 1 4 の第 1 側縁 4 0 の左端縁に、底襜部 6 4 の表側長手端縁 5 2 の近傍の溶着代 1 1 4 は表胴版 1 2 の底縁 3 4 の下端縁に、裏側長手端縁 5 4 の近傍の溶着代 1 1 6 は裏胴版 1 4 の底縁 4 4 の下端縁に、第 2 側襜部 6 6 の表側長手端縁 5 2 の近傍の溶着代 1 1 8 は表胴版 1 2 の第 2 側縁 3 2 の右端縁に、裏側長手端縁 5 4 の近傍の溶着代 1 2 0 は裏胴版 1 4 の第 2 側縁 4 2 の右端縁に、それぞれ略々揃えて溶着される。

20

【 0 0 2 7 】

表胴版 1 2 及び裏胴版 1 4 の間に襜部 1 6 が形成された後又は先に、裏胴版 1 4 の上端縁近傍に掩蓋部 2 0 を溶着する。

以上のようにして、バッグ 1 0 は製造される。

【 0 0 2 8 】

この発明は、前記実施の形態のバッグに限らず、この発明の思想に基づき変更することができる。

30

【 0 0 2 9 】

図 1 1 ないし 2 0 は、前記バッグの変形例たるバッグ 2 1 0 を示している。

このバッグ 2 1 0 は、前記バッグ 1 0 とは掩蓋部 2 0 等において異なる。

図 1 1 は、図 1 図示バッグの変形例たるバッグを示す斜視図解図である。図 1 2 は、図 1 1 図示バッグの掩蓋部を開いた状態を示す斜視図解図であり、図 1 3 は、図 1 1 図示バッグの横断面図解図である。図 1 4 は、図 1 1 図示バッグの要部の縦断面図解図であり、図 1 5 は、図 1 1 に示すバッグに用いられる表胴版及び裏胴版を示す斜視図解図である。図 1 6 は、図 1 1 に示すバッグの襜部を作る工程を示す横断面図解図であり、図 1 7 は、図 1 1 に示すバッグの表胴版を分離した状態における一部を省略した斜視図解図である。

【 0 0 3 0 】

40

このバッグ 2 1 0 は、例えばポリプロピレン等のポリオレフィン樹脂、塩化ビニール等の合成樹脂からなり、正面方形の表胴版 1 2 と、前記表胴版 1 2 と同一形状の背面方形の裏胴版 1 4 と、前記表胴版 1 2 と裏胴版 1 4 との間において前記表胴版 1 2 及び裏胴版 1 4 の外周縁に沿って連設された襜部 1 6 とを備える。

前記襜部 1 6 が連設されていない表胴版 1 2 及び裏胴版 1 4 の上端縁は、開口された開口部 1 8 と、前記裏胴版 1 4 より連設された開口部 1 8 を覆う掩蓋部 2 2 0 とを備え、表胴版 1 2 と裏胴版 1 4 と襜部 1 6 とに囲繞された空間に開口部 1 8 に続く収容部が形成される。

【 0 0 3 1 】

前記表胴版 1 2 及び裏胴版 1 4 は、比較的硬い正面視方形板体で両者が略々同一形状

50

・同一素材であり、襜部 1 6 と溶着できるポリプロピレン等の合成樹脂シートからなる。

表胴版 1 2 は、バッグの正面から見て、左側の第 1 側縁 3 0 と右側の第 2 側縁 3 2 と底縁 3 4 とを備える。

又、裏胴版 1 4 は、バッグの正面から見て、左側の第 1 側縁 4 0 と右側の第 2 側縁 4 2 と底縁 4 4 とを備える。

【 0 0 3 2 】

襜部 1 6 は、表胴版 1 2 の第 1 側縁 3 0 及び第 2 側縁 3 2 の長さ、底縁 3 4 の長さに対応する長さを有する表側長手端縁 5 2 を備えるとともに、裏胴版 1 4 の第 1 側縁 4 0 と第 2 側縁 4 2 の長さ、底縁 4 4 の長さに対応する長さを有する裏側長手端縁 5 4 を備える、表胴版 1 2 及び裏胴版 1 4 と溶着できる平面視長方形形状のポリオレフィン等の軟質プラスチックシートからなる襜部材 5 0 で形成されている。

10

【 0 0 3 3 】

前記襜部材 5 0 は、平面視略長方形形状の熱可塑性軟質プラスチックシートからなり、前記表胴版 1 2 及び裏胴版 1 4 は、比較的硬い熱可塑性プラスチック板体であり、熱融着性を有する。

襜部材 5 0 は、第 1 側襜部 6 2 の表側長手端縁 5 2 の近傍の溶着代 1 1 0 及び裏側長手端縁 5 4 の近傍の溶着代 1 1 2 と、底襜部 6 4 の表側長手端縁 5 2 の近傍の溶着代 1 1 4 及び裏側長手端縁 5 4 の近傍の溶着代 1 1 6 と、第 2 側襜部 6 6 の表側長手端縁 5 2 の近傍の溶着代 1 1 8 及び裏側長手端縁 5 4 の近傍の溶着代 1 2 0 とを備える。

【 0 0 3 4 】

20

表胴版 1 2 及び裏胴版 1 4 は、襜部材 5 0 を溶着するための溶着代を備える。

表胴版 1 2 は、その外周縁、すなわち第 1 側縁 3 0、第 2 側縁 3 2 及び底縁 3 4 の内側面で、第 1 側縁 3 0 の近傍の溶着代 3 0 a、第 2 側縁 3 2 の近傍の溶着代 3 2 a、底縁 3 4 の近傍の溶着代 3 4 a を備え、更に、第 1 側縁 3 0 の外側に折り曲げ部 3 0 b を介して連設された挟着補強部 2 2 2 a と、第 2 側縁 3 2 の外側に折り曲げ部 3 2 b を介して連設された挟着補強部 2 2 2 b と、底縁 3 4 の外側に折り曲げ部 3 4 b を介して連設された挟着補強部 2 2 2 c とを備える。

裏胴版 1 4 は、その外周縁、すなわち第 1 側縁 4 0、第 2 側縁 4 2 及び底縁 4 4 の内側面で、第 1 側縁 4 0 の近傍の溶着代 4 0 a、第 2 側縁 4 2 の近傍の溶着代 4 2 a、底縁 4 4 の近傍の溶着代 4 4 a を備え、更に、第 1 側縁 4 0 の外側に折り曲げ部 4 0 b を介して連設された挟着補強部 2 2 2 d と、第 2 側縁 4 2 の外側に折り曲げ部 4 2 b を介して連設された挟着補強部 2 2 2 e と、底縁 4 4 の外側に折り曲げ部 4 4 b を介して連設された挟着補強部 2 2 2 f とを備える。

30

【 0 0 3 5 】

前記襜部材 5 0 は、長手方向に連続する、表側長手端縁 5 2 の第 1 側襜部 6 2 の表側長手端縁 5 2 の近傍の溶着代 1 1 0、底襜部 6 4 の表側長手端縁 5 2 の近傍の溶着代 1 1 4 及び第 2 側襜部 6 6 の表側長手端縁 5 2 の近傍の溶着代 1 1 8 において、表胴版 1 2 の外周縁、すなわち第 1 側縁 3 0、第 2 側縁 3 2 及び底縁 3 4 の内側面で第 1 側縁 3 0 の近傍の溶着代 3 0 a、第 2 側縁 3 2 の近傍の溶着代 3 2 a、底縁 3 4 の近傍の溶着代 3 4 a に溶着されて表胴版 1 2 と連結されている（図 1 7 参照）。

40

そして、長手方向に連続する、第 1 側襜部 6 2 の裏側長手端縁 5 4 の近傍の溶着代 1 1 2、底襜部 6 4 の裏側長手端縁 5 4 の近傍の溶着代 1 1 6 及び第 2 側襜部 6 6 の裏側長手端縁 5 4 の近傍の溶着代 1 2 0 において、裏胴版 1 4 の外周縁、すなわち第 1 側縁 4 0、第 2 側縁 4 2 及び底縁 4 4 の近傍の内側面で第 1 側縁 4 0 の近傍の溶着代 4 0 a、第 2 側縁 4 2 の近傍の溶着代 4 2 a、底縁 4 4 の近傍の溶着代 4 4 a に溶着されて、裏胴版 1 4 と連結される。

第 1 側縁 4 0 の近傍の溶着代 4 0 a、第 2 側縁 4 2 の近傍の溶着代 4 2 a、底縁 4 4 の近傍の溶着代 4 4 a は、表胴版 1 2 の溶着代 3 0 a、3 2 a、3 4 a と同様に形成され、第 2 側縁 4 2 の近傍の溶着代 4 2 a は、第 1 側縁 4 0 の近傍の溶着代 4 0 a と同様に形成されている。

50

【 0 0 3 6 】

更に、第 1 側縁 3 0 の内側面に接し合わされた第 1 側襷部の表側長手端縁の近傍の溶着代 1 1 0 の内側面に、折り曲げ部 3 0 b において折り曲げられた挟着補強部 2 2 2 a が接し合わされて溶着され、第 2 側縁 3 2 の内側面に接し合わされた第 2 側襷部の表側長手端縁の近傍の溶着代 1 1 8 の内側面に、折り曲げ部 3 2 b において折り曲げられた挟着補強部 2 2 2 b が接し合わされて溶着され、底縁 3 4 の内側面に接し合わされた底襷部の表側長手端縁の近傍の溶着代 1 1 4 の内側面に、折り曲げ部 3 4 b において折り曲げられた挟着補強部 2 2 2 c が接し合わされて溶着されている。

【 0 0 3 7 】

更に、第 1 側縁 4 0 の内側面に接し合わされた第 1 側襷部の裏側長手端縁の近傍の溶着代 1 1 2 の内側面に、折り曲げ部 4 0 b において折り曲げられた挟着補強部 2 2 2 d が接し合わされて溶着され、第 2 側縁 4 2 の内側面に接し合わされた第 2 側襷部の裏側長手端縁の近傍の溶着代 1 2 0 の内側面に、折り曲げ部 4 2 b において折り曲げられた挟着補強部 2 2 2 e が接し合わされて溶着され、底縁 4 4 の内側面に接し合わされた底襷部の裏側長手端縁の近傍の溶着代 1 1 6 の内側面に、折り曲げ部 4 4 b において折り曲げられた挟着補強部 2 2 2 f が接し合わされて溶着されている。

【 0 0 3 8 】

このバッグ 2 1 0 の掩蓋部 2 2 0 は、把手部 2 2 6 を備えており、把手部 2 2 6 を堅固に装着するために、同一の形状、同一の大きさ、同一の素材からなる一つの掩蓋素材 2 2 0 a ともう一つの掩蓋素材 2 2 0 b とを接し合わせ、外周縁に沿った掩蓋素材 2 2 0 a の溶着域 2 2 0 a 1 と掩蓋素材 2 2 0 b の溶着域 2 2 0 b 1 とを溶着されてなる。

掩蓋部 2 2 0 を取り付け領域には、長方形のポリプロピレン製補強板 2 2 0 c を 2 つ折りにして重ねられた補強板 2 2 0 c が介装され、補強板 2 2 0 c の外周縁に沿った掩蓋素材 2 2 0 a の溶着域 2 2 0 a 2 と掩蓋素材 2 2 0 b の溶着域 2 2 0 b 2 及び掩蓋素材 2 2 0 a の溶着域 2 2 0 a 3 と掩蓋素材 2 2 0 b の溶着域 2 2 0 b 3 において、掩蓋素材 2 2 0 a と掩蓋素材 2 2 0 b とが幅方向に 2 条の線状に溶着をされて、適宜な位置に固定されている。

【 0 0 3 9 】

把手部 2 2 6 は、可倒式のハンドルからなり、ベース 2 2 6 A と、該ベース 2 2 6 A に回転自在に取り付けられたハンドル部 2 2 6 B とにより形成され、補強板 2 2 0 c が介装された領域にベース 2 2 6 A を固定されて、把手部 2 2 6 を構成している。

もっとも、把手部 2 2 6 は前記例に限らず、図 2 0 に示すようにコの字型のハンドルを固定してもよい。

また、襷部 1 6 の底襷部 6 4 を補強するために、図 1 1 及び 1 3 に示すように、補強部 2 4 に対応した部位で折れ曲がる底襷補強体 2 3 0 を添装してもよい。もっとも、底襷補強体 2 3 0 は、断面略くの字型でもよく、又、平板状でもよい。

【 0 0 4 0 】

次に、この発明にかかるバッグの製造方法について、主として図 1 5 ないし図 1 8 に基づいて説明する。

【 0 0 4 1 】

襷部材 5 0 をもって襷部 1 6 を形成する方法については、前記図 1 図示バッグの製造方法と同じであるので省略する。

【 0 0 4 2 】

次に、襷部材 5 0 を表胴版 1 2 及び裏胴版 1 4 に溶着する方法について説明する。

襷部材 5 0 は、第 1 角襷部 7 0 及び第 2 角襷面 9 0 b で折り曲げられた状態において、第 1 側襷部材 6 2 の表側長手端縁 5 2 の近傍の溶着代 1 1 0 及び裏側長手端縁 5 4 の近傍の溶着代 1 1 2 で、表胴版 1 2 の第 1 側縁 3 0 の溶着代 3 0 a 及び裏胴版 1 4 の第 1 側縁 4 0 の内側の溶着代 4 0 a と接し合わせ、更に、表側長手端縁 5 2 の近傍の溶着代 1 1 0 及び裏側長手端縁 5 4 の近傍の溶着代 1 1 2 の内側面にそれぞれその溶着代の形状に対応した表胴版 1 2 の挟着補強部 2 2 2 a 及び裏胴版 1 4 の挟着補強部 2 2 2 d を折り曲げ部

10

20

30

40

50

3 0 b 及び折り曲げ部 4 0 b において折り曲げて接し合わせ、一緒に同時に溶着する。

そして、底襷部 6 4 の表側長手端縁 5 2 の近傍の溶着代 1 1 4 及び裏側長手端縁 5 4 の近傍の溶着代 1 1 6 で、表胴版 1 2 の底縁 3 4 の溶着代 3 4 a 及び裏胴版 1 4 の底縁 4 4 の内側の溶着代 4 4 a と接し合わせ、更に、表側長手端縁 5 2 の近傍の溶着代 1 1 4 及び裏側長手端縁 5 4 の近傍の溶着代 1 1 6 の内側面にそれぞれその溶着代の形状に対応した表胴版 1 2 の挟着補強部 2 2 2 c 及び裏胴版 1 4 の挟着補強部 2 2 2 f を折り曲げ部 3 4 b 及び折り曲げ部 4 4 b において折り曲げて接し合わせ、一緒に同時に溶着する。

更に、第 2 側襷部 6 6 の表側長手端縁 5 2 の近傍の溶着代 1 1 8 及び裏側長手端縁 5 4 の近傍の溶着代 1 2 0 で、表胴版 1 1 2 の第 2 側縁 3 2 の溶着代 3 2 a 及び裏胴版 1 4 の第 2 側縁 4 2 の内側の溶着代 4 2 a と接し合わせ、更に、表側長手端縁 5 2 の近傍の溶着代 1 1 8 及び裏側長手端縁 5 4 の近傍の溶着代 1 2 0 の内側面にそれぞれその溶着代の形状に対応した表胴版 1 2 の挟着補強部 2 2 2 b 及び裏胴版 1 4 の挟着補強部 2 2 2 e を折り曲げ部 3 2 b 及び折り曲げ部 4 2 b において折り曲げて接し合わせ、一緒に同時に溶着する。

なお、第 1 側襷部材 6 2 の表側長手端縁 5 2 の近傍の溶着代 1 1 0 は折り罫 1 1 0 a で、裏側長手端縁 5 4 の近傍の溶着代 1 1 2 は折り罫 1 1 2 a で、底襷部 6 4 の表側長手端縁 5 2 の近傍の溶着代 1 1 4 は折り罫 1 1 4 a で、裏側長手端縁 5 4 の近傍の溶着代 1 1 6 は折り罫 1 1 6 a で、第 2 側襷部 6 6 の表側長手端縁 5 2 の近傍の溶着代 1 1 8 は折り罫 1 1 8 a で、裏側長手端縁 5 4 の近傍の溶着代 1 2 0 は折り罫 1 2 0 a で、それぞれの内側面を外側すなわち表胴版 1 2 及び裏胴版 1 4 側に向けて折り、第 1 側襷部材 6 2 の表側長手端縁 5 2 の近傍の溶着代 1 1 0 は表胴版 1 2 の第 1 側縁 3 0 の左端縁に、裏側長手端縁 5 4 の近傍の溶着代 1 1 2 は裏胴版 1 4 の第 1 側縁 4 0 の左端縁に、底襷部 6 4 の表側長手端縁 5 2 の近傍の溶着代 1 1 4 は表胴版 1 2 の底縁 3 4 の下端縁に、裏側長手端縁 5 4 の近傍の溶着代 1 1 6 は裏胴版 1 4 の底縁 4 4 の下端縁に、第 2 側襷部 6 6 の表側長手端縁 5 2 の近傍の溶着代 1 1 8 は表胴版 1 2 の第 2 側縁 3 2 の右端縁に、裏側長手端縁 5 4 の近傍の溶着代 1 2 0 は裏胴版 1 4 の第 2 側縁 4 2 の右端縁に、それぞれ略々揃えて溶着される。

【 0 0 4 3 】

表胴版 1 2 及び裏胴版 1 4 の間に襷部 1 6 が形成された後又は先に、裏胴版 1 4 の上端縁近傍に掩蓋部 2 2 0 を溶着する。

以上のようにして、バッグ 2 1 0 は製造される。

【 0 0 4 4 】

なお、第 1 角襷面 7 0 a 及び第 2 角襷面 7 0 b は、第 5 角折り目 8 0 及び第 6 角折り目 8 2 を折り曲げて、垂直方向にのびるようにしてもよく（図 9 及び図 1 7 図示）、また、第 4 角折り目 9 8 及び第 7 角折り目 1 0 4 を折り曲げて、水平方向にのびるようにしてもよい（図 1 9 図示）。

また、第 1 角襷面 9 0 a 及び第 2 角襷面 9 0 b は、第 5 角折り目 1 0 0 及び第 6 角折り目 1 0 2 を折り曲げて、垂直方向にのびるようにしてもよく、また、第 4 角折り目 9 8 及び第 7 角折り目 1 0 4 を折り曲げて、水平方向にのびるようにしてもよい。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 4 5 】

【図 1】この発明にかかる一実施の形態であるバッグを示す斜視図解図である。

【図 2】図 1 図示バッグの掩蓋部を開いた状態を示す斜視図解図である。

【図 3】図 1 図示バッグの横断面図解図である。

【図 4】図 1 図示バッグの要部の縦断面図解図である。

【図 5】図 1 に示すバッグに用いられる襷部材を示す展開図である。

【図 6】図 1 に示すバッグの襷部を作る工程を示す横断面図解図である。

【図 7】図 1 に示すバッグの襷部を作る工程を示す横断面図解図である。

【図 8】図 1 に示すバッグの襷部を作る工程を示す斜視図解図である。

【図 9】図 1 に示すバッグの襷部を作る工程を示す斜視図解図である。

10

20

30

40

50

【図 1 0】図 1 に示すバッグの表胴版を分離した状態における一部を省略した斜視図解図である。

【図 1 1】図 1 図示バッグの変形例たるバッグを示す斜視図解図である。

【図 1 2】図 1 1 図示バッグの掩蓋部を開いた状態を示す斜視図解図である。

【図 1 3】図 1 1 図示バッグの横断面図解図である。

【図 1 4】図 1 1 図示バッグの要部の縦断面図解図である。

【図 1 5】図 1 1 に示すバッグに用いられる表胴版及び裏胴版を示す斜視図解図である。

【図 1 6】図 1 1 に示すバッグの襠部を作る工程を示す横断面図解図である。

【図 1 7】図 1 1 に示すバッグの表胴版を分離した状態における一部を省略した斜視図解図である。 10

【図 1 8】図 1 1 図示バッグの掩蓋部の構造を示す図解図であり、(A) は分解した状態の斜視図解図であり、(B) は作る工程を示す断面図解図である。

【図 1 9】図 1 1 図示バッグの変形例たるバッグを示す斜視図解図である。

【図 2 0】ハンドルの変形例を示す斜視図解図である。

【符号の説明】

【 0 0 4 6 】

1 0 , 2 1 0 バッグ

1 2 表胴版

1 4 裏胴版

1 6 襠部

1 8 開口部

2 0 掩蓋部

2 2 補強材

2 4 補強部

3 0 , 4 0 第 1 側縁

3 2 , 4 2 第 2 側縁

3 0 a , 3 2 a , 3 4 a , 4 0 a , 4 2 a , 4 4 a 溶着代

3 0 b , 3 2 b , 3 4 b , 4 0 b , 4 2 b , 4 4 b 折り曲げ部

3 4 , 4 4 底縁

3 6 , 4 6 第 1 角部

3 8 , 4 8 第 2 角部

5 0 襠部材

5 2 表側長手端縁

5 4 裏側長手端縁

5 6 山折り折り目

5 8 表側谷折り折り目

6 0 裏側谷折り折り目

6 2 第 1 側襠部

6 4 底襠部

6 6 第 2 側襠部

7 0 第 1 角襠部

7 0 a 第 1 角襠面

7 0 b 第 2 角襠面

7 0 c 第 3 角襠面

7 0 d 第 4 角襠面

7 2 第 1 角折り目

7 4 第 2 角折り目

7 6 第 3 角折り目

7 8 第 4 角折り目

20

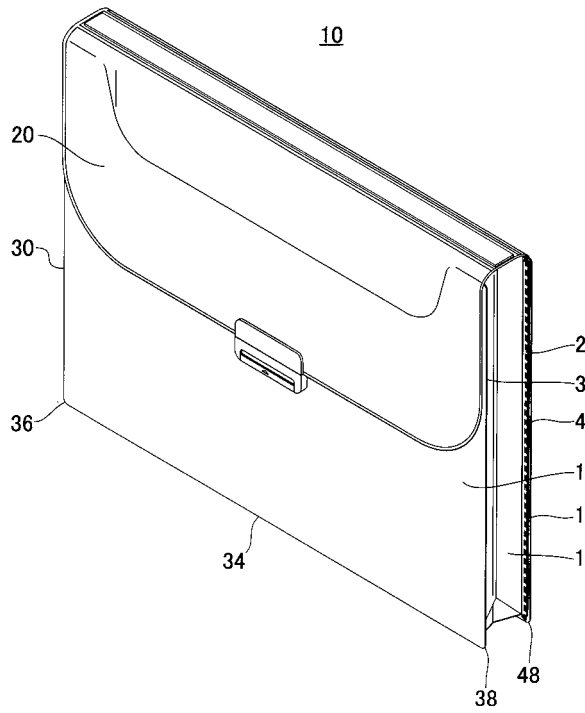
30

40

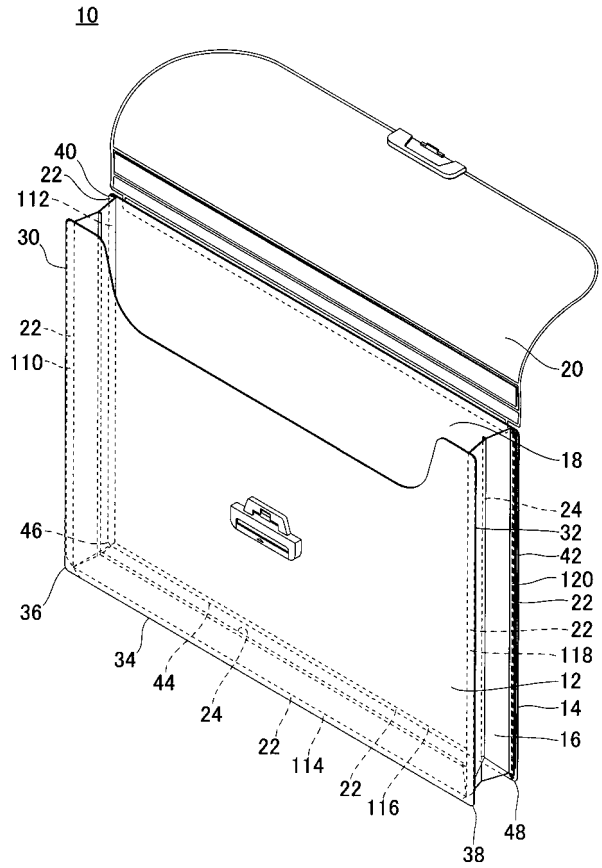
50

8 0	第 5 角折り目	
8 2	第 6 角折り目	
8 4	第 7 角折り目	
9 0	第 2 角襷部	
9 0 a	第 1 角襷面	
9 0 b	第 2 角襷面	
9 0 c	第 3 角襷面	
9 0 d	第 4 角襷面	
9 2	第 1 角折り目	
9 4	第 2 角折り目	10
9 6	第 3 角折り目	
9 8	第 4 角折り目	
1 0 0	第 5 角折り目	
1 0 2	第 6 角折り目	
1 0 4	第 7 角折り目	
1 1 0	第 1 側襷部の表側長手端縁の近傍の溶着代	
1 1 2	第 1 側襷部の裏側長手端縁の近傍の溶着代	
1 1 4	底襷部の表側長手端縁の近傍の溶着代	
1 1 6	底襷部の裏側長手端縁の近傍の溶着代	
1 1 8	第 2 側襷部の表側長手端縁の近傍の溶着代	20
1 2 0	第 2 側襷部の裏側長手端縁の近傍の溶着代	
2 2 0	掩蓋部	
2 2 0 a	掩蓋素材	
2 2 2 a , 2 2 2 b , 2 2 2 c , 2 2 2 d , 2 2 2 e , 2 2 2 f	挟着補強部	
2 2 6	把手部	
2 2 6 A	ベース	
2 2 6 B	ハンドル部	
2 3 0	底襷補強体	

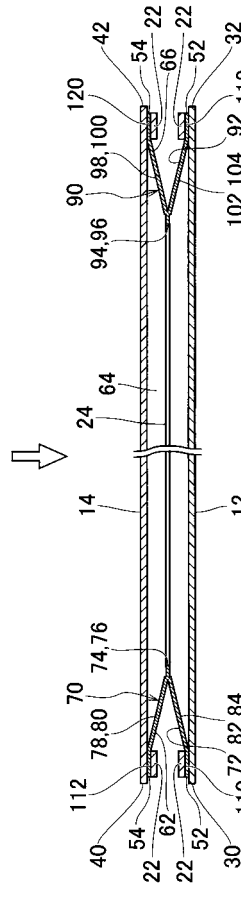
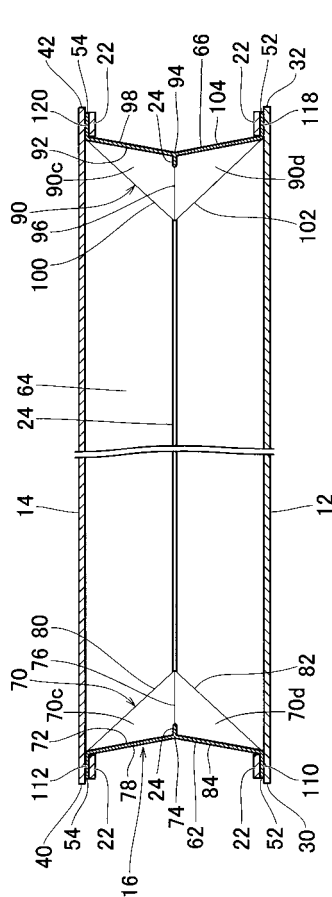
【図 1】



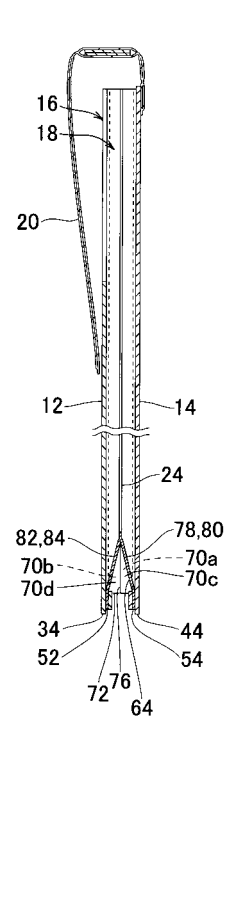
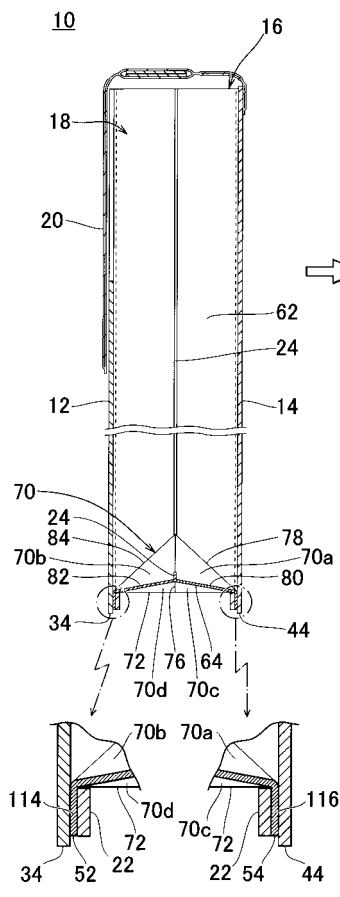
【図 2】



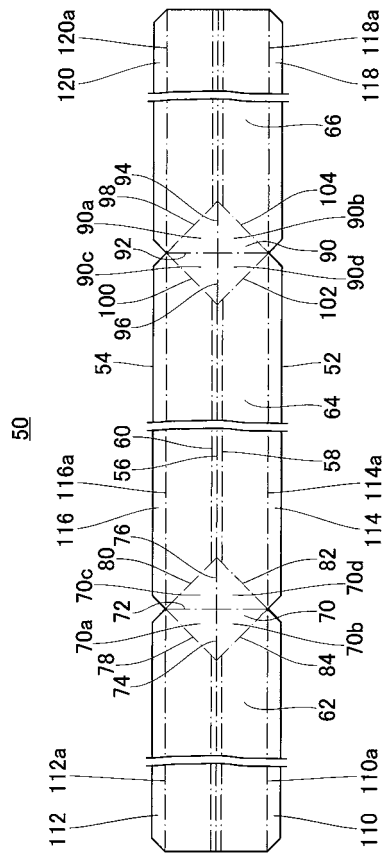
【図 3】



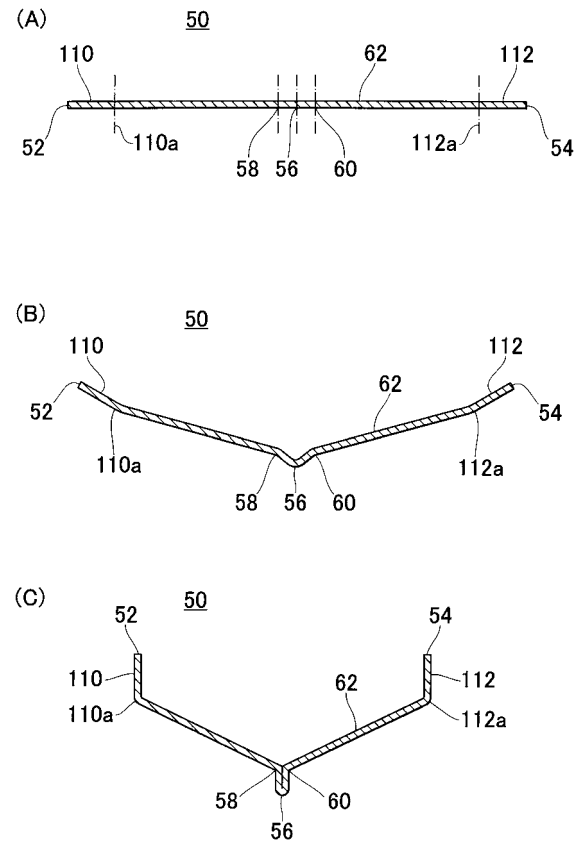
【図 4】



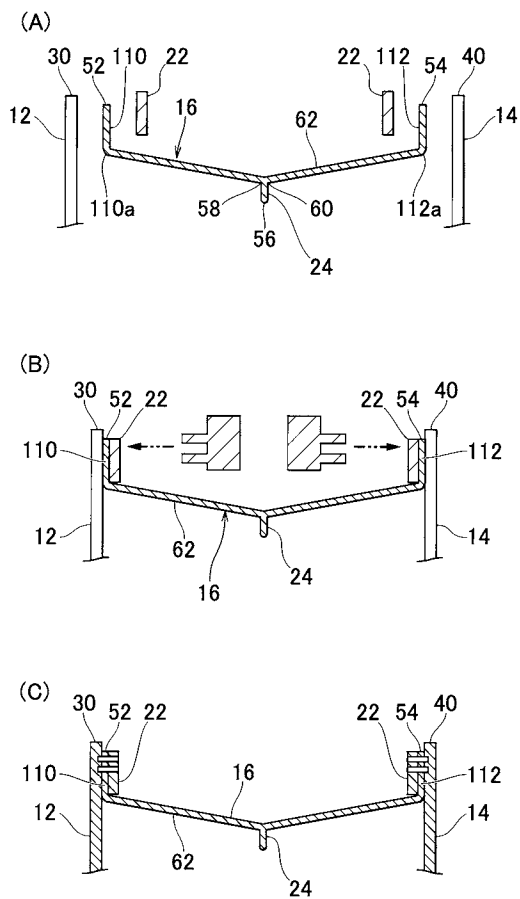
【図 5】



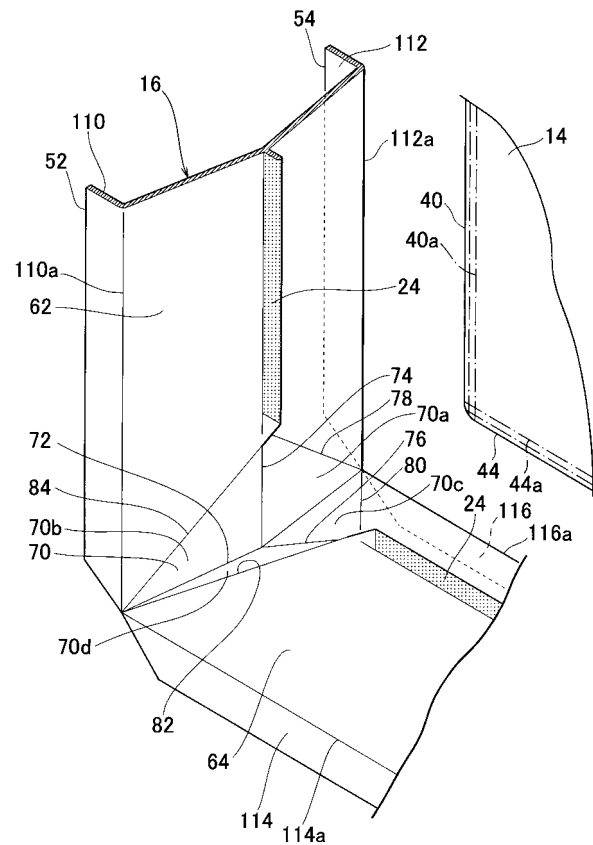
【図 6】



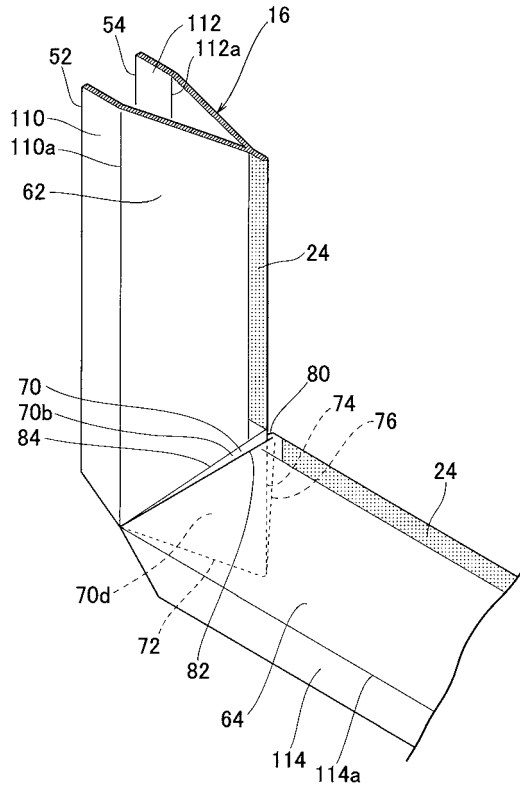
【図 7】



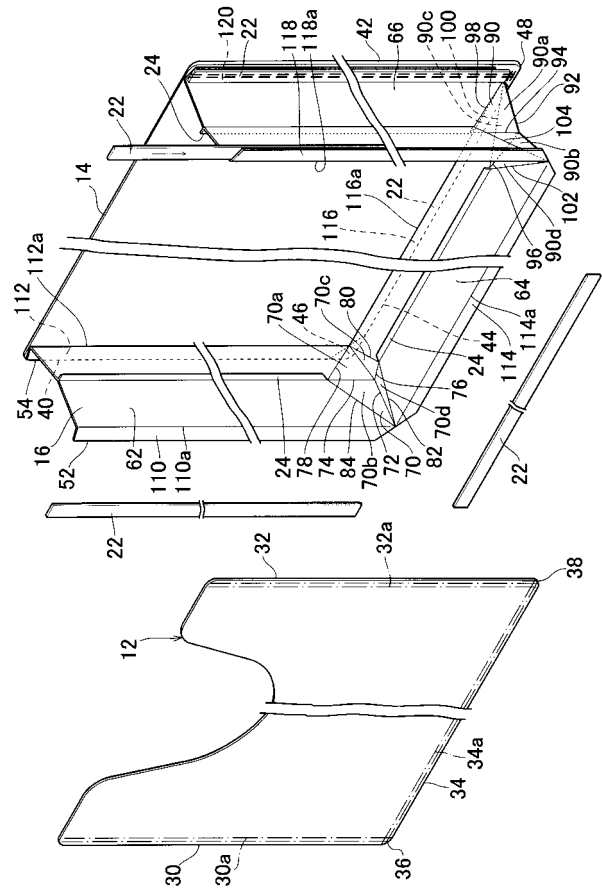
【図 8】



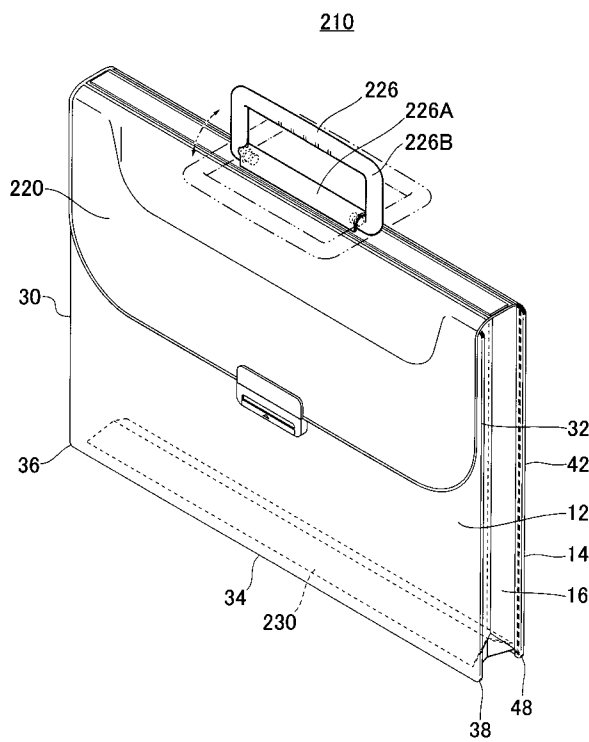
【図 9】



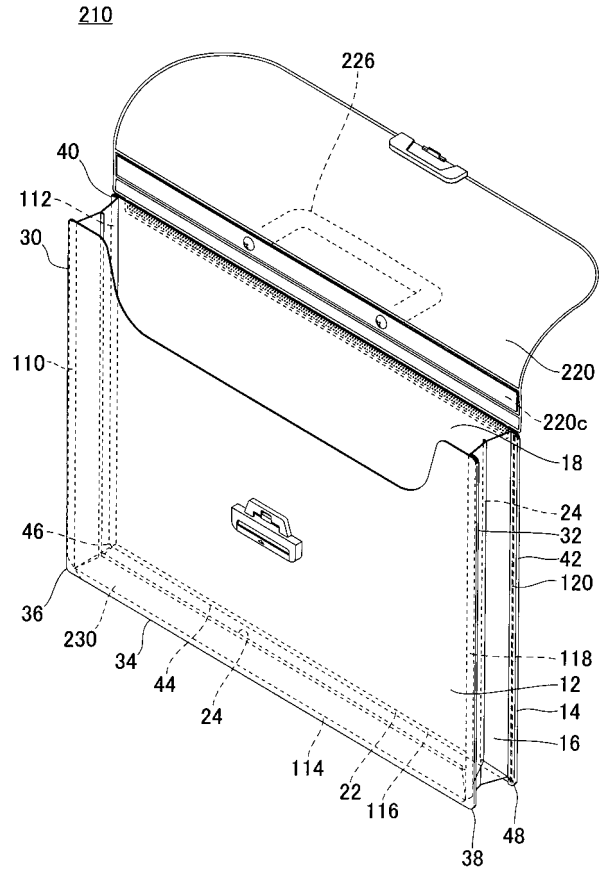
【図 10】



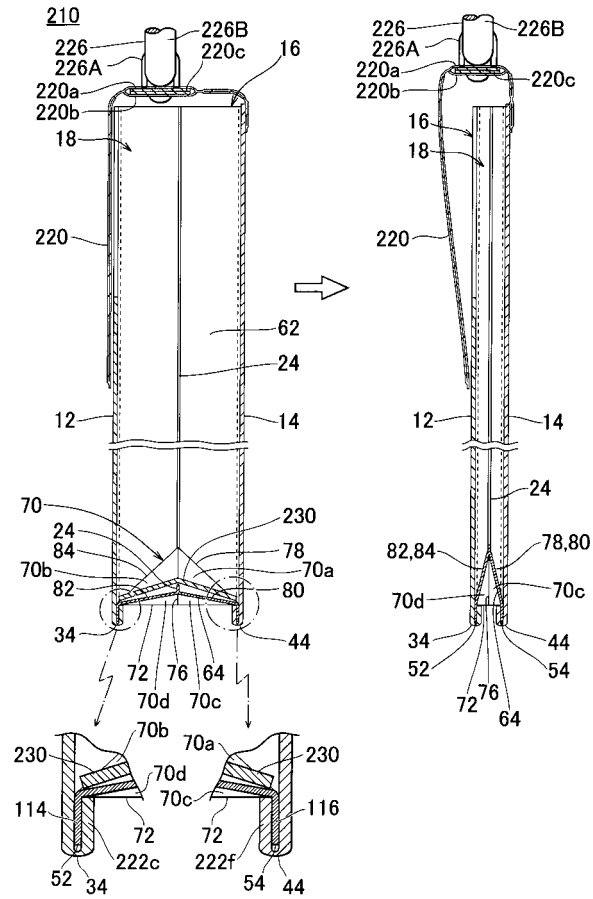
【図 11】



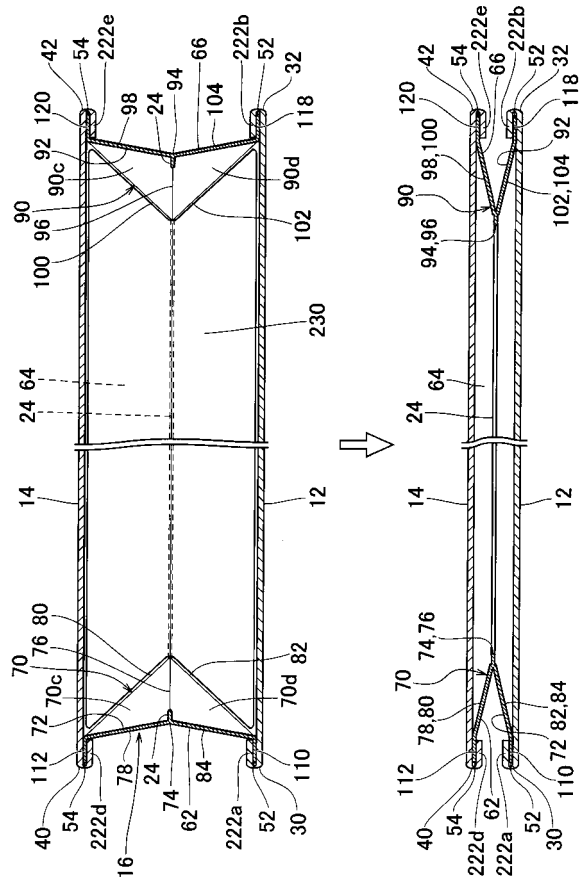
【図 12】



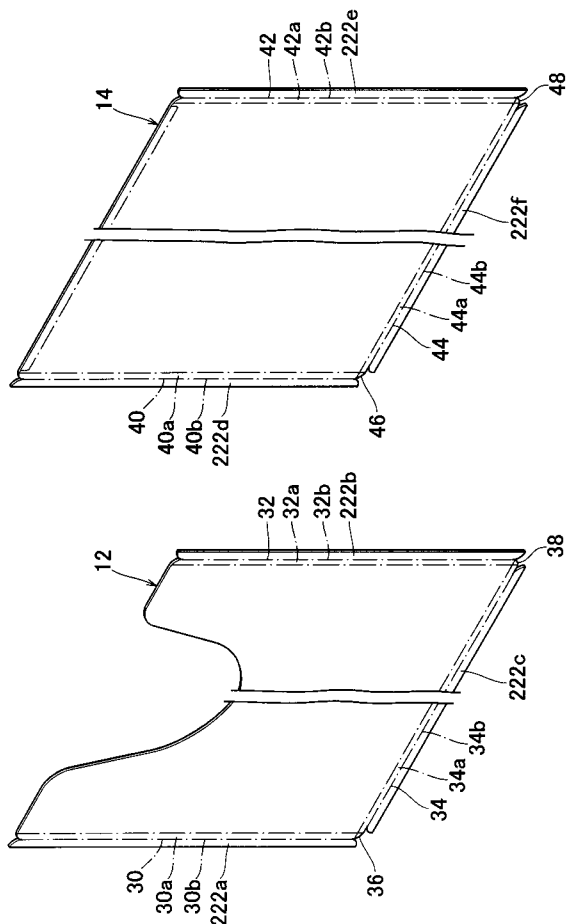
【図 13】



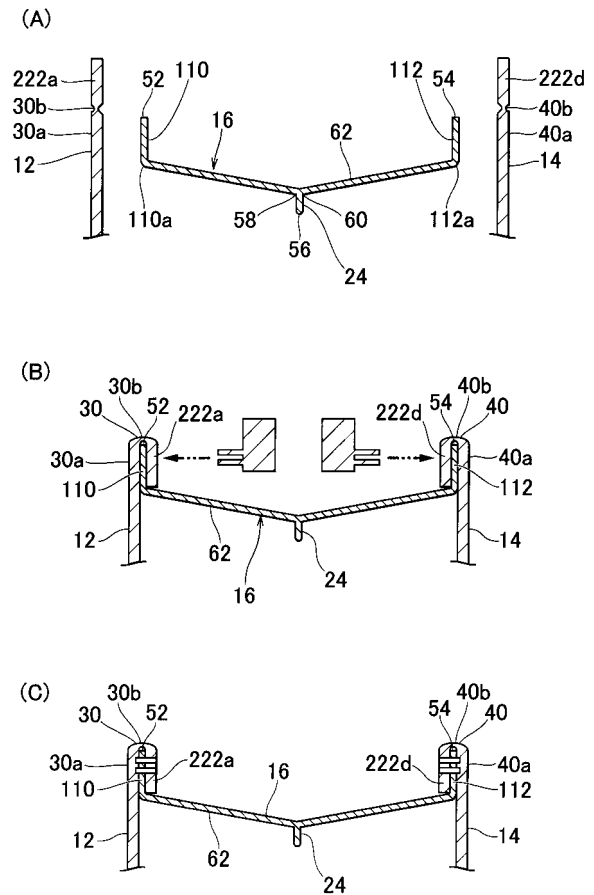
【図 14】



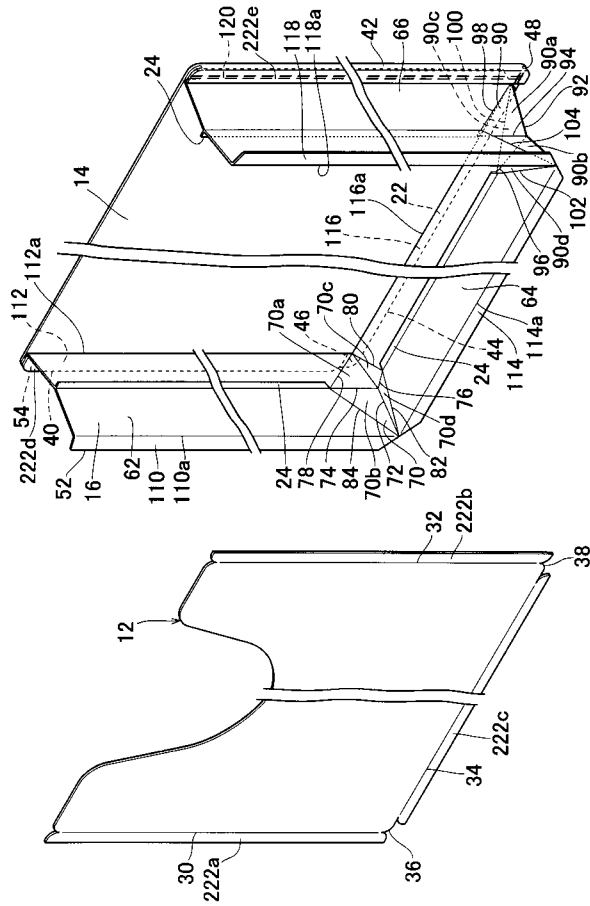
【図 15】



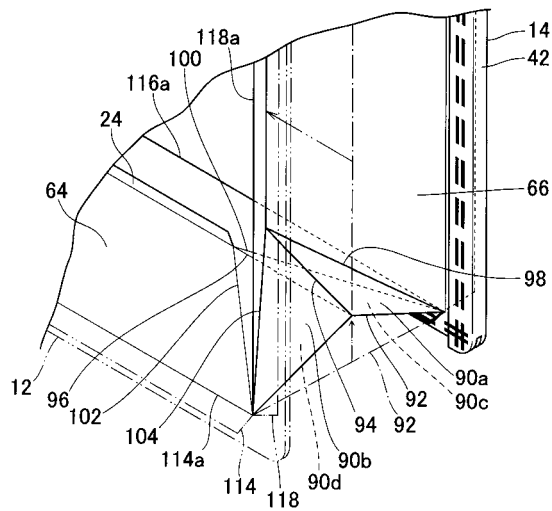
【図 16】



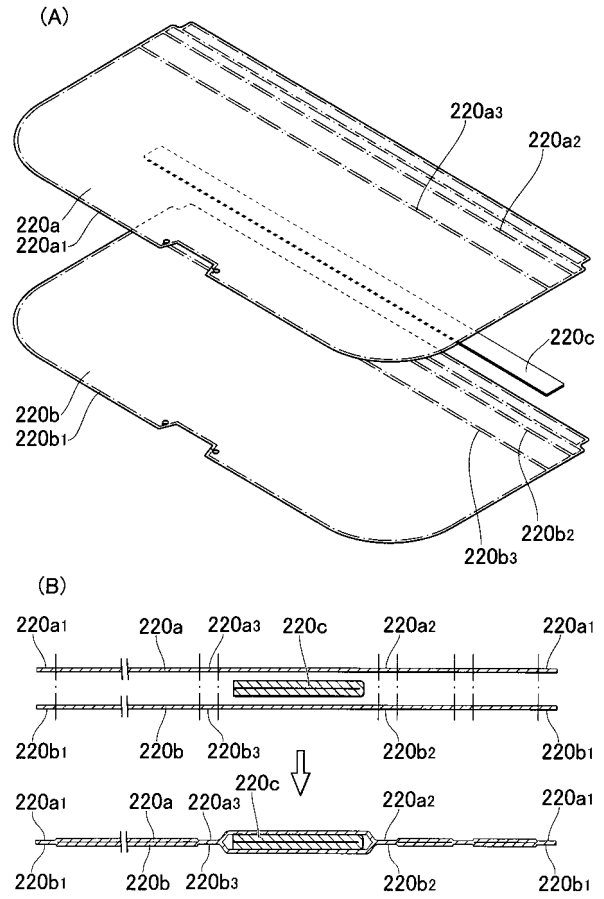
【図 17】



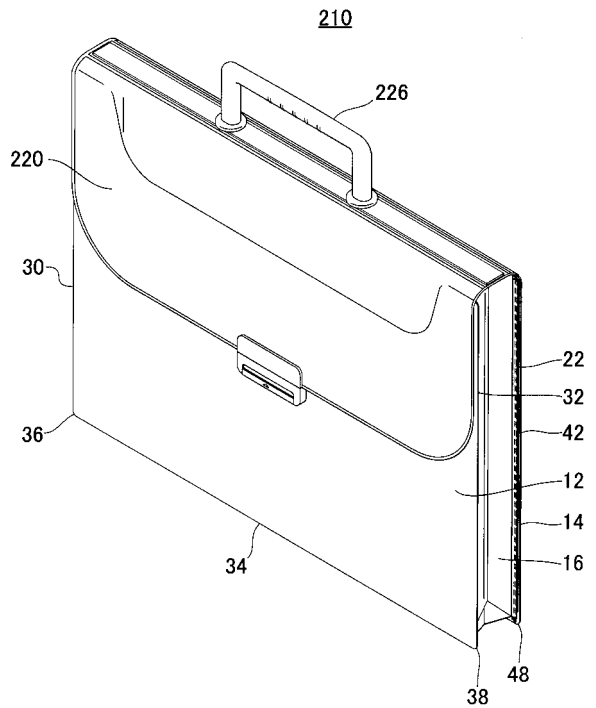
【図 19】



【図 18】



【図 20】



フロントページの続き

(51)Int.Cl. F I
B 6 5 D 30/20 C
A 4 5 C 3/02 T

審査官 戸田 耕太郎

(56)参考文献 登録実用新案第3052518(JP,U)
実公昭37-020179(JP,Y1)
実開昭61-074540(JP,U)
実開平03-075117(JP,U)
特開2000-025785(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl.,DB名)
B 6 5 D 30/16
A 4 5 C 3/02
B 6 5 D 30/02
B 6 5 D 30/18
B 6 5 D 30/20